本講義は大学入学共通テストで90％の得点を目標とする講座です。

大学入学共通テストの現代文といえば

「複数の文章が出るんでしょ」
「実用的な文章が出るんでしょ」
「今までの現代文と全然違うんでしょ」

と思っている人もいると思います。しかし、大学入学共通テストも「現代文」であることは間違いありません。ですから、その対策も何か特別な知識が必要だということもありません。今までの現代文学習の延長線上に「大学入学共通テスト」はあります。

「大学入学共通テストの現代文は変わっている」
という常識を覆すのがこの講義です。

本講義を終えたとき
「なんだ、大学入学共通テストなんて二次試験や難関私大の問題に比べたら簡単だ」
と思えるように講義をしていきます。

この講義で、みなさんの頭脳に革命を起こしてみせます。

本講義の現代文の考え方

本講義は文章を従来の「意味論」だけでなく「統語論」の側面からも解説していきます。もちろん文章には「意味」があります。しかし、「意味」というのは読者の側に生成される主観的なものでもあります。ですから、「意味」ばかりを追求していくと、「読者によって意味が異なる」ということが起こり得るのです。

一方、大学入試の問題はたとえ最高峰の記述問題であろうとも、「読者によって解答が異なる」ということはありません。そこには客観的に正しい答えがあって、その答えや答えに至るプロセスがいかなるものかによって点数がつけられます。であれば、言語の客観性である「統語論」的側面を無視することはできません。言語の「統語論」的側面とは以下の三つです。

① **文法**
② **構文**
③ **論理**

たとえば、①文法ですが、筆者によって副助詞の「も」の使い方が異なるということはあり得ません。また、読者によって副助詞の「も」の機能が異なって受け取られるということもあり得ません。副助詞の「も」は、たとえどんな筆者であろうと、どんな読者であろうと、客観的に機能します。

また、②構文ですが、本講義では「主語―述語」の関係や、「修飾語―被修飾語」の関係や、「接続語―被接続語」の関係からなる文構造のことを構文と呼びます。この構文に関しても、文法と同様のことが言えます。読者によって「文の主語―述語が異なる」ということはありません。構文もまた、どんな筆者であろうと、どんな読者であろうと、客観的に機能します。

最後に、③論理ですが、ここが本講義の最大の特徴です。①文法や②構文は「日本語」という言葉のルールです。それに対し、③論理は「日本語」だけにとどまりません。あらゆる言語に及ぶ最も普遍的なルールといってよいでしょう。数式が世界共通の言葉であるように、論理もまた世界共通の普遍的ルールなのです。本講義では論理を以下の「４つの言葉のルール」と「４つの言葉の使い方」とします。

- **「でない」という否定**
- **「かつ」という連言**
- **「または」という選言**
- **「ならば」という条件法**

以上の４つの言葉のルールを駆使して筆者は文を書きます。ですから、読者も４つの言葉のルールを理解して読まなければなりません。本講義ではその「ルール」と「方法」を伝えます。

さあ、最先端の現代文講義の開講です。

柳生　好之

受講の際の注意点　効果的な講義の利用法

最高の講義を用意しましたが、ただ映像を見るだけでは力はつきません。効果的に学習するためにも、この利用法を実践してください。

Ⅰ　予習について

共通テストの問題は解く手順が重要です。はじめは制限時間なしでも良いので、とりあえず問題に解答してみてください。授業の中で効果的な読み方解き方を説明するので、２回目からはその読み方解き方を実践してみましょう。

予習ポイント	講義の中で説明される読み方解き方を実践する。

Ⅱ 講義について

講義は「ポイントをまとめるスライド」「書き込みをするテキスト」という二つの画面で行われます。スライドのポイントはテキストに書かれていますので、テキストを見ながら理解してください。また、本文を図にまとめている部分は本文の下のメモ欄にメモしましょう。もう一方のテキストの画面では、本文に「線引き」をしてください。その際に「なぜそこに線を引くのか」を説明するので、その説明もメモしましょう。

講義ポイント

本文に線引きをする。説明や図はメモ欄に書く。

Ⅲ　復習について

よく「現代文は復習しなくてもよい」という意見を聞きます。しかし、そもそも「復習しなくてよい」なら、復習して覚えるべきポイントがない「授業」も受ける必要がないでしょう。受験生の貴重な時間をいただくわけですから、本講義は「復習ポイント」も用意してあります。

「復習ポイント」をしっかり覚えてください。これは現代文を分析する上で必要になる考え方です。

復習ポイント　**復習ポイントを覚える。**

目 次

実用的文章
第１講 ２０１７年度 試行調査 第２問 …… p1
第２講 ２０１８年度 試行調査 第２問 …… p13
第３講 演習問題 …… p27
文学的文章
第４講 ２０１７年度 試行調査 第３問 …… p41
第５講 ２０１８年度 試行調査 第３問 …… p51
第６講 演習問題 …… p61
巻末付録
読解法一覧 …… p74
傍線部内容説明問題解法 …… p94
傍線部理由説明問題解法 …… p97
傍線部心情把握問題解法 …… p105

第１講 2017年度 試行調査 第２問

第２問

次の文章と図表は、宇杉和夫「路地がまちの記憶をつなぐ」の一部である。これを読んで、後の問い（問１～５）に答えよ。なお、表１、２及び図３については、文章中に「（表１）」などの記載はない。

近代空間システムと路地空間システム

訪れた都市の内部に触れたと感じるのは、まちの路地に触れたときである。そこには香りがあって、固有で特殊でありながら、かつどこかで体験したことのある記憶がよぎる。西欧の路地は建物と建物のすきまで、さまざまなはみ出しものがなく管理されている。路地と内部空間との結びつきは窓とドアにより単純である。日本の路地は敷地と敷地の間にあり、また建物と建物の間にあり、建物には出窓あり、掃き出し窓あり、縁あり庇あり、塀あり等、多様で複雑である。敷地の中にも建物の中にも路地（土

表１

	近代道路空間計画システム	路地空間システム（近代以前空間システム）
主体	クルマ・交通	人間・生活
背景	欧米近代志向	土着地域性
形成	人工物質・基準標準化	自然性・多様性・手づくり性
構造	機能・合理性・均質性	A 機縁物語性・場所性・領域的
空間	B 広域空間システム・ヒエラルキー	地域環境システム・固有性
効果	人間条件性・国際普遍性	人間ふれあい性・地域文化継承

メモ欄

間）はあった。

日本の路地空間には西欧の路地にはない自然性がある。物質としての自然、形成過程としての自然、の2つである。日本の坪庭（注1）を考えてみよう。やはり建物（4つの）に囲まれた坪庭の特徴はそこが砂や石や土と緑の自然の空間である。さらにその閉じた自然は床下を通って建物外部にもつながっている。日本の路地にも、坪庭のように全面的ではないが自然性が継承されている。また路地空間の特徴は、ある数戸が集まった居住建築の中で軒や縁や緑の重なった通行空間であることである。そこは通行空間であるが居住集合のウチの空間であり、その場所は生活境域としてのまとまりがある。ソトの空間から区切られているが通行空間としてつながるこの微妙な空間システムを継承するには物理的な仕組みの継承だけでなく、近隣コミュニティの中に相関的秩序があり、通行者もそれに対応できているシステムがある。

現在、近代に欧米から移入され、日本の近代の中で形成されてきた都市空間・建築空間システムが環境システムと併せて改めて問われている。しかし日本にもち込まれた近代は、明治開国まではその多くは東南アジア、東アジアで変質した近代西欧文化で融和性もあった。明治に至って急速な欧米文化導入の後の日本の近代の空間計画を見れば、路地空間、路地的空間システムは常に、大枠として近代の空間システムと対照的位置にあることが理解できる。近代の空間計画の特徴を産業技術発展と都市化と近代社会形成の主要3点についてあげれば、その対照に路地空間の特徴をあげることは容易である。すなわち、路地的空間、路地的空間システムについて検討することは近代空間システムとは異なる地域に継承されてきた空間システムについて肯定的に検

メモ欄

表２

	地形と集落の路地			
	低地の路地	**台地の路地**	**地形の縁・境界**	**丘陵・山と路地**
非区画型路地 （オモテウラ型） （クルドサック型）	水路と自由型	トオリとウラ道	山辺路地・崖縁路地 崖（堤）下路地・階段路地 行き当たり封鎖	丘上集 崖上路地 景観と眺望
区画内型路地 （パッケージ型）	条理区画 条坊区画 近世町家区画 耕地整理 土地区画整理	条理区画 条坊区画 近世町家区画 耕地整理 土地区画整理		

討することになる。

路地の形成とは記憶・持続である

路地的空間について述べる基本的な視座に、「道」「道路」の視座と「居住空間」の視座があり、どちらか片方を省くことはできない。道・道路は環境・居住空間の基本的な要素である。その環境・都市は人間を総体的に規定し、文化も個も環境の中から生まれてきた。行動を制約してしまう環境としての住宅と都市、その正しい環境、理想環境とは何かをどう問いかけるか。これが西欧の都市は古代以来明確であった。都市は神の秩序で、神と同じ形姿をもつ人間だけが自然の姿と都市の姿を生活空間として描くことができた。

これに対し、日本とアジアの都市の基本的性質である「非西欧都市」の形成を近代以前と近代に分けて、その形成経過を次の世代にどう説明・継承するのか、すなわちどう持続させていくのかが重要である。そして体験空間の形成・記憶の継承と路地的空

メモ欄

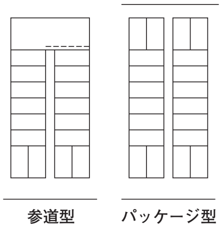
間の持続はこの大事な現在の問題の骨格になり続けるものと考えることができる。この根本的な次元では現在の区画化された市街地形成のモデルだけでなく、その形成過程の記憶、原風景をも計画対象とすることが必要になっている。元来、日本の自然環境（自然景観）はアジアが共有する自然信仰の認識的な秩序の中にあった。日本のムラとマチは西欧と異なり、環境としての自然と一体的であり連続的関係であったのである。具体的には、周囲の（中心である）山と海に生活空間が深く結びついていた。結果として、路地は地形に深く結びついて継承されてきた。

まず、日本の道空間の原型・原風景は区画された街区にはないことを指摘したい。また「すべての道はローマに通ず」といわれ、ローマから拡大延長された西欧の道路空間と、日本の道空間は異なる。目的到着点をもつ参道型空間が基本であり、地域内の参道空間から折れ曲がって分かれ、より広域の次の参道空間に結びつく形式で、西欧のグリッド形式（注２）、放射形式の道路とは異なる（**図１**）。多くの日本のまちはこの参道空間の両側の店と住居とその裏側の空間からなり、その間に路地がある。これは城下町にも組み込まれてすきまとしての路地があるゆえに連続的、持続的であったと考えられるわけである。それによって面的に広がった計画的区画にある路地は同様のものが繰り返し連続するパッケージ型路地として前者の参道型路地、クルドサック（注３）型路地と区分できる（**図２**）。

図１

◎参道型路地的空間
東京・神田の小祠（しょうし）には、その手前の街区に参道型路地的空間が発見できた

図２



◎参道型路地空間とパッケージ型路地空間
月島の通り抜け路地は典型的なパッケージ型路地である

メモ欄

図３

◎東京・江東区の街区形成と通り
自動車交通、駐車スペースにならずガランとした通りもある

図４

◎東京・江東区の街区の中の路地
区画整理街区にも路地的空間がまちの特性をつくっている

図５

◎東京・墨田区向島の通り
向島の通り空間はカーブしてまちの特性となっている

この区画方形のグリッドの原型・原風景はどこか。ニューヨークはそのグリッド街路の原型をギリシャ都市に求め、近代世界の中心都市を目指した。アジアの都市にはそれとは異なる別の源流がある。日本の都市はこの区画街区に限らず、アジアの源流と欧米の源流の重複的形式の空間形成になっている。日本の路地は計画的な区画整形の中にあっても、そこに自然尊重の立場が基本にあり、その基盤となってきた。

日本にも西欧にも街区形式の歴史と継承がある。東京にも江戸から継承された街区がある。江東区の方形整形街区方式は掘割（注４）とともに形成された。自由型の水路に沿った路地と同様、区画整形街区も水面に沿った路地と接して形成されてきた。この方形形式は震災復興区画整理事業でも、戦災後の復興計画でも継続された。ここは近代の、整形を基本とする市街地整備の典型となるものである。しかし、そこに理想とした成果・持続が確認できるであろうか（**図４**）。

東京の魅力ある市街地としては地形の複雑な山の手に評価がある。山の手では否応（いやおう）なく地形、自然が関連する。しかし区画整形の歴史がある江東区では、計画が機能的・経済的に短絡されてきた。その中で自然とのつながりをもつ居住区形成には、水面水路との計画的な配慮が必要だった。単に区画整形するだけでは魅力

メモ欄

ある住宅市街地は形成されない。その計画的な配慮とは、第1に地区街区の歴史的な空間の記憶を人間スケールの空間にして継承する努力である。体験されてきた空間を誇りをもって継承する意思である。路地的空間の継承である。これらを合理的空間基準が変革対象としてきたことに問題がある。この新区画街区の傍らに、水資源活用から立地した工場敷地跡地が、水辺のオープンスペースと高層居住の眺望・景観を売りものに再開発されれば、住宅需要者の希望は超高層マンションに向かい、街区中層マンションが停滞するのは当然のことである。

この2タイプに対して、向島地区の路地的空間は街区型でもなく、開放高層居住空間でもなく、自然形成農道等からなる地域継承空間システムの文脈の中にある（**図５**）。そしてそこでもまた居住者の評価が高まってきている。本来、地域に継承されてきた空間システムであれば、それは計画検討課題になり、結果がよければビジョンの核にもなるものであった。ところが現実には、地域の継承空間システムは居住者の持続的居住欲求によって残り、また地域の原風景に対する一般人の希求・要求によって、結果として継承に至ったものが多く、計画的にはあくまで変革すべき対象であった経過がある。計画とはあくまで欧米空間への追随であった。また、この地域継承の路地空間システム居住地区においても駅前や北側背後に水面をもつ地区において高層マンションも含む再開発が進行している。しかし、この再開発もル・コルビュジエ（注５）の高層地区提案のように、地区を全面的に変革するものではなく、路地的空間との関係こそが計画のテーマとなる方法論が必要である。

路地的空間をもつ低層居住地区にするか、外部開放空間をもつ高層居住地区にする

メモ欄

かといった二者択一ではなく、地域・地区の中で両空間モデルが補完・混成して成立するシステムが残っている。地域の原風景、村の原風景は都市を含めてあらゆる地域コミュニティの原点である。その村（集落）の原風景がほとんど消滅しているが、家並みと路地と共同空間からなる村とまちの原風景は、現在のストックの再建に至った時には、すべての近代空間計画地の再生にあたって、可能性を検討すべきである。都市居住にとっても路地はふれあいと場所の原風景である。近代化の中でこそ路地の原風景に特別の意味があったとすれば、それは日本の近代都市計画を継承する新たな時代の１つの原点にもなるべきものである。

（宇杉和夫他『まち路地再生のデザイン――路地に学ぶ生活空間の再生術』による。
なお、一部表記を改めたところがある。）

（注）
1　坪庭――建物に囲まれた小さな庭。
2　グリッド――格子。
3　クルドサック――袋小路。
4　掘割――地面を掘って作った水路。江東区には掘割を埋め立てて道路を整備した箇所がある。
5　ル・コルビュジエ――スイス生まれの建築家（一八八七～一九六五）。

メモ欄

問1　文章全体の内容に照らした場合、**表1**の傍線部A・Bはそれぞれどのように説明できるか。最も適当なものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 1 ・ 2 。

A　機縁物語性　1

① 通行空間に緑を配置し、自然の大切さを認識できる環境に優しい構造。
② 生活者のコミュニティが成立し、通行者もそこに参入できる開放的な構造。
③ 生活環境としてまとまりがあり、外部と遮断された自立的な構造。
④ ウチとソトの空間に応じて人間関係が変容するような、劇的な構造。
⑤ 通行空間から切り離すことで、生活空間の歴史や記憶を継承する構造。

B　広域空間システム　2

① 中心都市を基点として拡大延長された合理的空間システム。
② 区画整理されながらも原風景を残した近代的空間システム。
③ 近代化以前のアジア的空間と融合した欧米的空間システム。
④ 産業技術によって地形を平らに整備した均質的空間システム。
⑤ 居住空間を減らして交通空間を優先した機能的空間システム。

問２　図２の「パッケージ型」と「参道型」の路地の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **3** 。

① パッケージ型の路地とは、近代道路空間計画システムによって区画化された車優先の路地のことであり、参道型の路地とは、アジアの自然信仰に基づいた、手つかずの自然を残した原始的な路地を指す。

② パッケージ型の路地とは、区画整理された路地が反復的に拡張された路地のことであり、参道型の路地とは、通り抜けできない目的到着点をもち、折れ曲がって持続的に広がる、城下町にあるような路地を指す。

③ パッケージ型の路地とは、ローマのような中心都市から拡大延長され一元化された路地のことであり、参道型の路地とは、祠（ほこら）のような複数の目的到達地点によって独自性を競い合うような日本的な路地を指す。

④ パッケージ型の路地とは、ギリシャの都市をモデルに発展してきた同心円状の幾何学的路地のことであり、参道型の路地とは、通行空間と居住空間が混然一体となって秩序を失ったアジア的な路地を指す。

⑤ パッケージ型の路地とは、通り抜けできる路地と通り抜けできない路地が繰り返し連続する路地のことであり、参道型の路地とは、他の路地と連続的、持続的に広がる迷路のような路地を指す。

問３　図３の江東区の一画は、どのように整備された例として挙げられているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **4** 。

① 街区の一部を区画整理し、江戸の歴史的な町並みを残しつつ複合的な近代の空間に整備された例。
② 区画整理の歴史的な蓄積を生かし、人間スケールの空間的記憶とその継承を重視して整備された例。
③ 江戸から継承された水路を埋め立て、自動車交通に配慮した機能的な近代の空間に整備された例。
④ 掘割や水路を大規模に埋め立て、オープンスペースと眺望・景観を売りものにして整備された例。
⑤ 複雑な地形が連続している地の利を生かし、江戸期の掘割や水路に沿った区画に整備された例。

問４　「路地空間」・「路地的空間」はどのような生活空間と捉えられるか。文章全体に即したまとめとして適当なものを、次の①〜⑥のうちから**二つ**選べ。解答番号は 5 。

① 自然発生的に区画化された生活空間。
② 地形に基づいて形成された生活空間。
③ 大自然の景観を一望できる生活空間。
④ 都市とは異なる自然豊かな生活空間。
⑤ 通行者の安全性を確保した生活空間。
⑥ 土地の記憶を保持している生活空間。

問５　まちづくりにおける「路地的空間」の長所と短所について、緊急時や災害時の対応の観点を加えて議論した場合、文章全体を踏まえて成り立つ意見はどれか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 6 。

① 機能性や合理性を重視する都市の生活にあって、路地的空間は緊急時の対応を可能にする密なコミュニティを形成するという長所がある。一方、そうした生活境域としてのまとまりはしばしば自然信仰的な秩序とともにあるため、近代的な計画に基づいて再現することが難しいという短所がある。

② 日本の路地的空間は欧米の路地とは異なり、自然との共生や人間同士のふれあいを可能にするという長所がある。一方、自然破壊につながるような区画整理を拒否するため、居住空間と通行空間が連続的に広がらず、高齢の単身居住者が多くなり、災害時や緊急時において孤立してしまうという短所がある。

③ 豊かな自然や懐かしい風景が残存している路地的空間は、持続的に住みたいと思わせる生活空間であり、相互扶助のコミュニティが形成されやすいという長所がある。一方、計画的な区画整理がなされていないために、災害時には、緊急車両の進入を妨げたり住民の避難を困難にしたりする短所がある。

④ 路地的空間には、災害時の避難行動を可能にする機能的な道・道路であるという点で、近代的な都市の街区にはない長所がある。一方、都市居住者にとって路地的空間は地域の原風景としてばかり捉えられがちで、そうした機能性が合理的に評価されたり、活用されたりしにくいという短所がある。

⑤ 再開発を行わず近代以前の地域の原風景をとどめる低層住宅の路地的空間は、コミュニティとしての結束力が強く、非常事態においても対処できる長所がある。一方、隣接する欧米近代志向の開放高層居住空間のコミュニティとは、価値観があまりにも異なるために共存できないという短所がある。

第２講　２０１８年度 試行調査 第２問

第２問

次の【資料Ⅰ】は、【資料Ⅱ】と【文章】を参考に作成しているポスターである。【資料Ⅱ】は著作権法（二〇一六年改正）の条文の一部であり、【文章】は名和小太郎（なわこたろう）の『著作権２．０　ウェブ時代の文化発展をめざして』（二〇一〇年）の一部である。これらを読んで、後の問い（問１～６）に答えよ。なお、設問の都合で【文章】の本文の段落に 1 ～ 18 の番号を付し、表記を一部改めている。（配点　50）

【資料Ⅰ】

著作権のイロハ

著作物とは（「著作権法」第二条の一より）

☑「思想または感情」を表現したもの
☑思想または感情を「創作的」に表現したもの
☑思想または感情を「表現」したもの
☑「文芸、学術、美術、音楽の範囲」に属するもの

著作物の例

言　語	音　楽
・小説 ・脚本 ・講演　等	・楽曲 ・楽曲を伴う歌詞　等

舞踏・無言劇	美　術	地図・図形
・ダンス ・日本舞踊 ・振り付け　等	・絵画 ・版画 ・彫刻　等	・学術的な図面 ・図表 ・立体図　等

著作権の例外規定（権利者の了解を得ずに著作物を利用できる）

〈例〉市民楽団が市民ホールで行う演奏会

【例外となるための条件】

a

メモ欄

【資料Ⅱ】

「著作権法」(抄)

（目的）

第一条　この法律は、著作物並びに実演、レコード、放送及び有線放送に関し著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作者等の権利の保護を図り、もつて文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第二条　この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

一　著作物　思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。

二　著作者　著作物を創作する者をいう。

三　実演　著作物を、演劇的に演じ、舞い、演奏し、歌い、口演し、朗詠し、又はその他の方法により演ずること(これらに類する行為で、著作物を演じないが芸能的な性質を有するものを含む。)をいう。

（技術の開発又は実用化のための試験の用に供するための利用）

第三十条の四　公表された著作物は、著作物の録音、録画その他の利用に係る技術の開発又は実用化のための試験の用に供する場合には、その必要と認められる限度において、利用することができる。

（営利を目的としない上演等）

第三十八条　公表された著作物は、営利を目的とせず、かつ、聴衆又は観衆から料金(いずれの名義をもつてするかを問わず、著作物の提供又は提示につき受ける対価をいう。以下この条において同じ。)を受けない場合には、公に上演し、演奏し、上映し、又は口述することができる。ただし、当該上演、演奏、上映又は口述について実演家又は口述を行う者に対し報酬が支払われる場合は、この限りでない。

（時事の事件の報道のための利用）

第四十一条　写真、映画、放送その他の方法によつて時事の事件を報道する場合には、当該事件を構成し、又は当該事件の過程において見られ、若しくは聞かれる著作物は、報道の目的上正当な範囲内において、複製し、及び当該事件の報道に伴つて利用することができる。

メモ欄

【文章】

1 著作者は最初の作品を何らかの実体――記録メディア――に載せて発表する。その実体は紙であったり、カンバスであったり、空気振動であったり、光ディスクであったりする。この最初の作品をそれが載せられた実体とともに「原作品」――オリジナル――と呼ぶ。

2 著作権法は、じつは、この原作品のなかに存在するエッセンスを引き出して「著作物」と定義していることになる。そのエッセンスとは何か。A記録メディアから剝がされた記号列になる。著作権が対象とするものは原作品ではなく、この記号列としての著作物である。

3 論理的には、著作権法のコントロール対象は著作物である。しかし、そのコントロールは著作物という概念を介して物理的な実体――複製物など――へと及ぶのである。現実の作品は、物理的には、あるいは消失し、あるいは拡散してしまう。だが著作権法は、著作物を頑丈な概念として扱う。

4 もうひと言。著作物は、かりに原作品が壊されても盗まれても、保護期間内であれば、そのまま存続する。また、破れた書籍のなかにも、音程を外した歌唱のなかにも、存在する。現代のプラトニズム、とも言える。

キーワード	排除されるもの
思想または感情	外界にあるもの(事実、法則など)
創作的	ありふれたもの
表現	発見、着想
文芸、学術、美術、音楽の範囲	実用のもの

表１　著作物の定義

メモ欄

5 著作物は、多様な姿、形をしている。繰り返せば、テキストに限っても——そして保護期間について眼をつむれば——それは神話、叙事詩、叙情詩、法典、教典、小説、哲学書、歴史書、新聞記事、理工系論文に及ぶ。いっぽう、表1の定義にガッチ(ア)するものを上記の例示から拾うと、もっともテキゴウ(イ)するものは叙情詩、逆に、定義になじみにくいものが理工系論文、あるいは新聞記事ということになる。理工系論文、新聞記事には、表1から排除される要素を多く含んでいる。

6 ということで、著作権法にいう著作物の定義は叙情詩をモデルにしたものであり、したがって、著作権の扱いについても、その侵害の有無を含めて、この叙情詩モデルを通しているのである。それはテキストにとどまらない。地図であっても、伽藍（がらん）であっても、ラップであっても、プログラムであっても、それを叙情詩として扱うのである。

7 だが、ここには無方式主義（注1）という原則がある。このために、著作権法は叙情詩モデルを尺度として使えば排除されてしまうようなものまで、著作物として認めてしまうことになる。

8 叙情詩モデルについて続ける。このモデルの意味を確かめるために、その特性を表2として示そう。比較

	叙情詩型	理工系論文型
何が特色	表現	着想、論理、事実
誰が記述	私	誰でも
どんな記述法	主観的	客観的
どんな対象	一回的	普遍的
他テキストとの関係	なし（自立的）	累積的
誰の価値	自分	万人

表２　テキストの型

メモ欄

のために叙情詩の対極にあると見られる理工系論文の特性も並べておく。

B

9 表2は、具体的な著作物――テキスト――について、表1を再構成したものである。ここに見るように、叙情詩型のテキストの特徴は、「私」が「自分」の価値として「一回的」な対象を「主観的」に「表現」として示したものとなる。逆に、理工系論文の特徴は、「誰」かが「万人」の価値として「普遍的」な対象について「客観的」に「着想」や「論理」や「事実」を示すものとなる。

10 話がくどくなるが続ける。二人の詩人が「太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。」(注2)というテキストを同時にべつべつに発表することは、確率的に見てほとんどゼロである。このように、叙情詩型のテキストであれば、表現の希少性は高く、したがってその著作物性――著作権の濃さ――は高い。

11 いっぽう、誰が解読しても、特定の生物種の特定の染色体の特定の遺伝子に対するＤＮＡ配列は同じ表現になる。こちらの著作物性は低く、したがって著作権法のコントロール領域の外へはじき出されてしまう。その記号列にどれほど研究者のアイデンティティが凝縮していようと、どれほどコストや時間が投入されていようと、どれほどの財産的な価値があろうとも、である。じつは、この型のテキストの価値は内容にある。その内容とはテキストの示す着想、論理、事実、さらにアルゴリズム(注3)、発見などに及ぶ

12 多くのテキスト――たとえば哲学書、未来予測シナリオ、歴史小説――は叙情詩と理工系論文とをリョウ(ウ)タンとするスペクトル(注4)のうえにある。その著作物性については、そのスペクトル上の位置を参照すれば、およその見当はつけることができる。

メモ欄

13 表2から、どんなテキストであっても、「表現」と「内容」とを二重にもっている、という理解を導くこともできる。それはフェルディナン・ド・ソシュール[注5]の言う「記号表現」と「記号内容」に相当する。叙情詩尺度は、つまり著作権法は、このうち前者に注目し、この表現のもつ価値の程度によって、その記号列が著作物であるのか否かを判断するものである。ここに見られる表現の抽出と内容の排除とを、法学の専門家は「表現／内容の二分法」と言う。

利用目的＼著作物		固定型	散逸型	増殖型
そのまま		展示	上映、演奏	――――
複製		フォトコピー	録音、録画	デジタル化
移転		譲渡、貸与	放送、送信、ファイル交換	
二次的利用	変形	翻訳、編曲、脚色、映画化、パロディ化 リバース・エンジニアリング[注6]		
	組込み	編集、データベース化		

表３　著作物の利用行為（例示）

14 いま価値というあいまいな言葉を使ったが、およそ何であれ、「ありふれた表現」でなければ、つまり希少性があれば、それには価値が生じる。著作権法は、テキストの表現の希少性に注目し、それが際立っているものほど、そのテキストは濃い著作権をもつ、逆であれば薄い著作権をもつと判断するのである。この二分法は著作権訴訟においてよく言及される。争いの対象になった著作物の特性がより叙情詩型なのか、そうではなくてより理工系論文型なのか、この判断によって侵害のありなしを決めることになる。

15 著作物に対する操作には、著作権に関係するものと、そうではないものとがある。前者を著作権の「利

メモ欄

用」と言う。そのなかには多様な手段があり、これをまとめると表3となる。「コピーライト」という言葉は、この操作をすべてコピーとみなすものである。その「コピー」は日常語より多義的である。

16 表3に示した以外の著作物に対する操作を著作物の「使用」と呼ぶ。この使用に対して著作権法ははたらかない。何が「利用」で何が「使用」か。その判断基準は明らかでない。

17 著作物の使用のなかには、たとえば、書物の(エ)エツラン、建築への居住、プログラムの実行などが含まれる。したがって、海賊版の出版は著作権に触れるが、海賊版の読書に著作権は関知しない。じつは、利用や使用の事前の操作として著作物へのアクセスという操作がある。これも著作権とは関係がない。

18 このように、著作権法は「利用／使用の二分法」も設けている。この二分法がないと、著作物の使用、著作物へのアクセスまでも著作権法がコントロールすることとなる。このときコントロールは(オ)カジョウとなり、正常な社会生活までも抑圧してしまう。たとえば、読書のつど、居住のつど、計算のつど、その人は著作者に許可を求めなければならない。ただし、現実には利用と使用との区別が困難な場合もある。

（注）
1 無方式主義――著作物の誕生とともに著作権も発生するという考え方。
2 「太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。」――三好達治「雪」の一節。
3 アルゴリズム――問題を解決する定型的な手法・技法や演算手続きを指示する規則。
4 スペクトル――多様なものをある観点に基づいて規則的に配列したもの。
5 フェルディナン・ド・ソシュール――スイス生まれの言語学者（一八五七〜一九一三）。
6 リバース・エンジニアリング――一般の製造手順とは逆に、完成品を分解・分析してその仕組み、構造、性能を調べ、新製品に取り入れる手法。

メモ欄

問１　傍線部(ア)〜(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は［1］〜［5］。

(ア)　ガッチする［1］
① チメイ的な失敗
② 火災ホウチ器
③ チセツな表現
④ チミツな頭脳
⑤ 再考のヨチがある

(イ)　テキゴウする［2］
① プロにヒッテキする実力
② テキドに運動する
③ 窓にスイテキがつく
④ ケイテキを鳴らす
⑤ 脱税をテキハツする

(ウ)　リョウタン［3］
① タンセイして育てる
② 負傷者をタンカで運ぶ
③ 経営がハタンする
④ ラクタンする
⑤ タンテキに示す

(エ)　エツラン［4］
① 橋のランカンにもたれる
② シュツランの誉れ
③ ランセの英雄
④ イチランに供する
⑤ 事態はルイランの危うきにある

(オ)　カジョウ［5］
① ジョウヨ金
② ジョウチョウな文章
③ 米からジョウゾウする製法
④ 金庫のセジョウ
⑤ 家庭のジョウビ薬

問２　傍線部A「記録メディアから剝がされた記号列」とあるが、それはどういうものか。**【資料Ⅱ】**を踏まえて考えられる例として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［6］。

① 実演、レコード、放送及び有線放送に関するすべての文化的所産。

② 小説家が執筆した手書きの原稿を活字で印刷した文芸雑誌。

③ 画家が制作した、消失したり散逸したりしていない美術品。

④ 作曲家が音楽作品を通じて創作的に表現した思想や感情。

⑤ 著作権法ではコントロールできないオリジナルな舞踏や歌唱。

問3　**【文章】**における著作権に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は　7　。

① 著作権に関わる著作物の操作の一つに「利用」があり、著作者の了解を得ることなく行うことができる。音楽の場合は、そのまま演奏すること、録音などの複製をすること、編曲することなどがそれにあたる。

② 著作権法がコントロールする著作物は、叙情詩モデルによって定義づけられるテキストである。したがって、叙情詩、教典、小説、歴史書などがこれにあたり、新聞記事や理工系論文は除外される。

③ 多くのテキストは叙情詩型と理工系論文型に分類することが可能である。この「二分法」の考え方に立つことで、著作権訴訟においては、著作権の侵害の問題について明確な判断を下すことができている。

④ 著作権について考える際には、「著作物性」という考え方が必要である。なぜなら、遺伝子のＤＮＡ配列のように表現の希少性が低いものも著作権法によって保護できるからである。

⑤ 著作物にあたるどのようなテキストも、「表現」と「内容」を二重にもつ。著作権法は、内容を排除して表現を抽出し、その表現がもつ価値の程度によって著作物にあたるかどうかを判断している。

問４　傍線部Ｂ「表２は、具体的な著作物――テキスト――について、表１を再構成したものである。」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［８］。

① 「キーワード」と「排除されるもの」とを対比的にまとめて整理する**表１**に対し、**表２**では、「テキストの型」の観点から**表１**の「排除されるもの」の定義をより明確にしている。

② 「キーワード」と「排除されるもの」の二つの特性を含むものを著作物とする**表１**に対し、**表２**では、叙情詩型と理工系論文型とを対極とするテキストの特性によって著作物性を定義している。

③ 「キーワード」や「排除されるもの」の観点で著作物の多様な類型を網羅する**表１**に対し、**表２**では、著作物となる「テキストの型」の詳細を整理して説明をしている。

④ 叙情詩モデルの特徴と著作物から排除されるものとを整理している**表１**に対し、**表２**では、叙情詩型と理工系論文型の特性の違いを比べながら、著作物性の濃淡を説明している。

⑤ 「排除されるもの」を示して著作物の範囲を定義づける**表１**に対し、**表２**では、叙情詩型と理工系論文型との類似性を明らかにして、著作物と定義されるものの特質を示している。

問5　**【文章】**の表現に関する説明として**適当でないもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **9** 。

① 第1段落第一文と第3段落第二文で用いられている「――」は、直前の語句である「何らかの実体」や「物理的な実体」を強調し、筆者の主張に注釈を加える働きをもっている。

② 第4段落第一文「もうひと言。」、第10段落第一文「話がくどくなるが続ける。」は、読者を意識した親しみやすい口語的な表現になっており、文章内容のよりいっそうの理解を促す工夫がなされている。

③ 第4段落第四文「現代のプラトニズム、とも言える」、第13段落第二文「フェルディナン・ド・ソシュールの言う『記号表現』と『記号内容』に相当する」という表現では、哲学や言語学の概念を援用して自分の考えが展開されている。

④ 第5段落第二文「叙情詩」や「理工系論文」、第13段落第一文「表現」と「内容」、第15段落第一文「著作権に関係するものと、そうではないもの」という表現では、それぞれの特質を明らかにするための事例が対比的に取り上げられている。

⑤ 第16段落第二文「はたらかない」、第四文「明らかでない」、第17段落第二文「関知しない」、第四文「関係がない」という否定表現は、著作権法の及ばない領域を明らかにし、その現実的な運用の複雑さを示唆している。

問６　**【資料Ⅰ】**の空欄 **a** に当てはまるものを、次の①〜⑥のうちから三つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は 10 〜 12 。

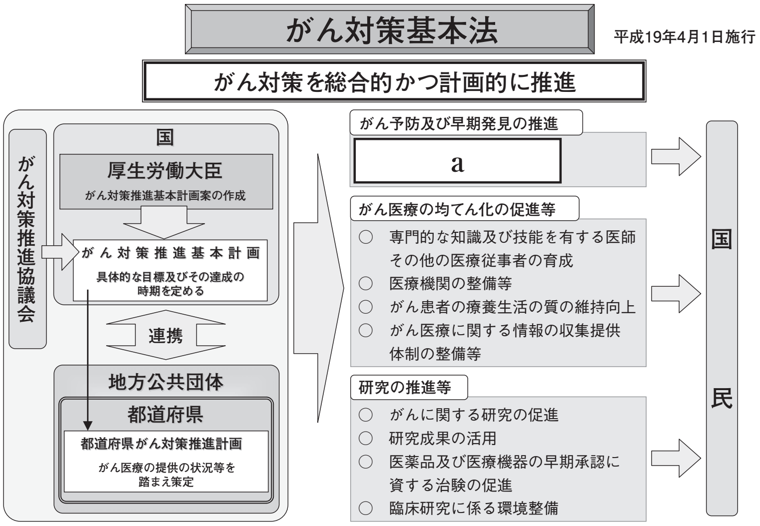
① 原曲にアレンジを加えたパロディとして演奏すること
② 楽団の営利を目的としていない演奏会であること
③ 誰でも容易に演奏することができる曲を用いること
④ 観客から一切の料金を徴収しないこと
⑤ 文化の発展を目的とした演奏会であること
⑥ 演奏を行う楽団に報酬が支払われないこと

第3講　演習問題

第2問

次の【資料Ⅰ】は、【資料Ⅱ】「がん対策基本法」（二〇〇七年施行）に付随した図解である。【資料Ⅱ】は本法の条文の一部であり、【文章】は黒木登志夫（くろきとしお）の『健康・老化・寿命――人といのちの文化誌』（二〇〇七年）の一部である。これらを読んで、後の問い（**問1～6**）に答えよ。なお、設問の都合で【文章】の本文の段落に 1 ～ 17 の番号を付し、表記を一部改めている。

【資料Ⅰ】



メモ欄

【資料Ⅱ】

がん対策基本法（抄）

第一章　総則

（目的）　第一条 この法律は、我が国のがん対策がこれまでの取組により進展し、成果を収めてきたものの、なお、がんが国民の疾病による死亡の最大の原因となっている等がんが国民の生命及び健康にとって重大な問題となっている現状にかんがみ、がん対策の一層の充実を図るため、がん対策に関し、基本理念を定め、国、地方公共団体、医療保険者、国民及び医師等の責務を明らかにし、並びにがん対策の推進に関する計画の策定について定めるとともに、がん対策の基本となる事項を定めることにより、がん対策を総合的かつ計画的に推進することを目的とする。

（基本理念）　第二条 がん対策は、次に掲げる事項を基本理念として行われなければならない。

一 がんの克服を目指し、がんに関する専門的、学際的又は総合的な研究を推進するとともに、がんの予防、診断、治療等に係る技術の向上その他の研究等の成果を普及し、活用し、及び発展させること。　二 がん患者がその居住する地域にかかわらず等しく科学的知見に基づく適切ながんに係る医療（以下「がん医療」という。）を受けることができるようにすること。　三 がん患者の置かれている状況に応じ、本人の意向を十分尊重してがんの治療方法等が選択されるようがん医療を提供する体制の整備がなされること。

（国の責務）　第三条 国は、前条の基本理念（次条において「基本理念」という。）にのっとり、がん対策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）　第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、がん対策に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（医療保険者の責務）　第五条 医療保険者（介護保険法（平成九年法律第百二十三号）第七条第七項に規定する医療保険者をいう。）は、国及び地方公共団体が講ずるがんの予防に関する啓発及び知識の普及、がん検診に関する普及啓発等の施策に協力するよう努めなければならない。

（国民の責務）　第六条 国民は、A<u>喫煙、食生活、運動その他の生活習慣が健康に及ぼす影響等がんに関する正しい知識</u>を持ち、がんの予防に必要な注意を払うよう努めるとともに、必要に応じ、がん検診を受けるよう努めなければならない。

（医師等の責務）　第七条 医師その他の医療関係者は、国及び地方公共団体が講ずるがん対策に協力し、がんの予防に寄与するよう努めるとともに、がん患者の置かれている状況を深く認識し、良質かつ適切ながん医療を行うよう努めなければならない。（中略）

第三章　基本的施策　　第一節 がんの予防及び早期発見の推進

（がんの予防の推進）　第十二条 国及び地方公共団体は、喫煙、食生活、運動その他の生活習慣及び生活環境が健康に及ぼす影響に関する啓発及び知識の普及その他のがんの予防の推進のために必要な施策を講ずるものとする。

（がん検診の質の向上等）　第十三条 国及び地方公共団体は、がんの早期発見に資するよう、がん検診の方法等の検討、がん検診の事業評価の実施、がん検診に携わる医療従事者に対する研修の機会の確保その他のがん検診の質の向上等を図るために必要な施策を講ずるとともに、がん検診の受診率の向上に資するよう、がん検診に関する普及啓発その他の必要な施策を講ずるものとする。（後略）

メモ欄

【文章】

1 夏目漱石（なつめそうせき）の『吾輩（わがはい）は猫である』には、それまで運動をしたことのなかった日本人が争って運動を始めた様子が書かれている。「吾輩は近頃運動を始めた。猫の癖に運動なんて利いた風だと一概に冷罵（れいば）し去る手合に一寸（ちょっと）申し聞けるが、さう云（い）ふ人間だつてつい近年迄（まで）は運動の何者たるを解せずに、食つて寝るのを天職の様に心得て居たではないか」。

2 一六世紀半ば、日本に滞在し、織田信長に面会している宣教師フロイスは、当時の日本人がほとんど運動をしなかったと書いているという。「われらは散歩を、おおいに(ア)イアンとなり、健康に良く、気晴らしだと考えている。日本人はまったくそれを行わず、むしろそれを不思議とし、われらがそれを苦労とか苦行とかのためにするものと見なす」。

3 日本人が運動するようになったのは、明治維新の際に、幕府や各藩が、軍事力増強のために体操を取り入れたのに始まる。体操には、集団として規律を守るという側面と、身体を鍛えるという二つの意味があった。明治二三年（一八九〇）の小学校令により「体操場」を設けることが規定され、明治二七年（一八九四）には、文部大臣井上毅（こわし）が学校で「運動会」を行うことを奨励した。学校に取り入れられた体操により、国民はこぞって運動するようになった。漱石の「猫」も、「どうも二十世紀の今日運動せんのは如何（いか）にも貧民の様で人聞きがわるい」と言うほどにまでなった。

4 （中略）健康のために運動が必要であることを疑う人はいないだろう。その一方、科学技術は、特別に運動をしなくともすむような便利な社会に変えてしまった。どこへ

メモ欄

行くにも車がある。エスカレーター、エレベーターがあるので、階段を上らずにすむ。両手に重いものをぶら下げなくとも、宅急便が運んでくれる。家事も電気製品がしてくれる。現代人は、わざわざ時間を作って運動をしない限り、あまりからだを動かさないでも、生活できるようになった。

5 二〇〇〇年までの二〇年間の肥満者の割合を、大都会、市部、郡部で比較すると、郡部の増加がもっとも目立つ。その理由の一つは、運動量の違いにあるのではなかろうか。大都会、たとえば東京では、自分で車を運転するのは休みの日くらいである。通勤に自家用車を使う人は滅多にいない。家から駅まで一〇分以上歩き、つり革にぶら下がり、足を踏ん張って満員電車に乗る。階段を何回も上ったり下りたりして乗り換え、さらに歩いて会社に到着する。それに対して、地方に行くと完全に車社会である。ほんの一〇分程度の距離でも車を使う癖がついてしまっている。

6 さほど運動をしなくても生活できるようになった現代人にとって、運動とは、自らの意志で、わざわざ時間を作り、お金を払って行うものになった。運動した後の爽快感はかけがえがないにしても、運動している最中は苦しくてつらい。それだけに、強い意志がないと続けることができない。さまざまな口実を作って、運動を避ける人が多いのも不思議ではない。

7 学生時代にスポーツに夢中になった人も、少し離れていると、腕が落ち、若い人に敵（かな）わなくなる。次第に、スポーツはテレビで見る物になってしまう。長く続けようと思ったら、あまり勝負に関係せず、一人でもできるようなスポーツがよい。

8 スポーツといっても、一〇〇メートルを全力で疾走するような激しい運動は、若く

メモ欄

なければできないし、無理をすればからだを痛める。しかし、ある程度の時間をかけて、ゆっくりと運動するのであれば、年齢を問わず可能であろう。そのような生活習慣病を予防する運動として有酸素運動が推奨されている。有酸素運動としては、ウォーキング、ジョギング、エアロビクスダンス、水中歩行、水泳などがある。目安としては、心拍数が一〇〇～一二〇程度の運動を、四五～六〇分継続し、週に三回行う。有酸素運動を開始して二〇分くらいすると、蓄積した脂肪が(イ)ネンショウしはじめる。

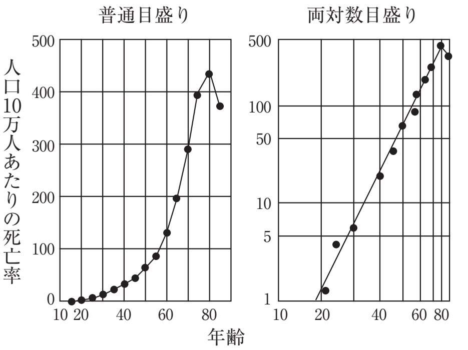
9 メタボリック症候群を象徴する内臓脂肪を減らし腹囲を一センチ縮めるためには、一キロの減量が必要である。一キロ体重を減らそうとすると、運動によるエネルギー消費と食事からのエネルギー減と合わせて、七〇〇〇キロカロリー減少させなければならない。（中略）運動はカロリーを消費するだけではない。運動によって筋肉が強くなると、インスリンが働きやすくなり、基礎(ウ)タイシャが高まる。その結果、エネルギー消費が底上げされ、太りにくくなる。

10 運動はがんの予防にもつながる。厚労省の研究班は、四〇～六九歳の男女六万五〇〇〇人を追跡調査し、日頃の運動が大腸がんの予防につながることを明らかにした。男性では、運動量の一番少ないグループと比べると、もっとも運動をしているグループの大腸がんリスクは三一％低下し、〇・六九になる。大腸がんを結腸がんと直腸がんに分けると、結腸がんでは〇・五九まで四二％も低下するが、直腸がんでは差がなかった。女性では、運動と大腸がんの間にこのような関係は認められなかった。実は、運動が大腸がんの予防になることは以前から言われていたが、わが国にははっきりとしたデータがなかった。運動は、肥満対策だけでなく、がんの予防にもなるのだ。

メモ欄

11 運動は年の単位で継続することが大切である。スポーツクラブに、「継続は力なり」という張り紙を見かけるが、会員を引き留めるだけの目的ではない。

12 病気になるリスクは、年齢とともに確実に高くなっていく。それも、数学的にきれいに説明できるような増え方である。たとえば、胃がんの死亡率を見てみよう。図①に示すように、縦軸に胃がんの年齢別死亡率、横軸に年齢をとると、二〇歳から八〇歳まできれいな放物線を描く。グラフが曲がったままでは分析しにくいので、縦軸と横軸を対数変換(注1)すると、図②のように、見事な直線になる。



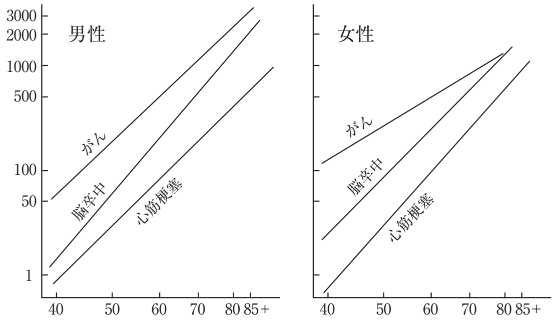
図①　**図②**

胃がんの年齢別死亡率。縦横軸とも普通目盛りのグラフ（図①）では放物線を描く。しかし、両軸を対数目盛（図②）にすると、20歳から80歳まで直線性を示す

13 B<u>初めて、この関係を知ったとき、非常に驚いたのをおぼえている。</u>患者はなぜ自分が胃がんになったかを悩み、医師は目の前の患者を治そうとする。その意味で、病気はまったく個人的な現象である。しかし、一本の直線の上に、二〇歳から八〇歳まで五歳ごとにとった一二の点がきれいに並ぶということは、ある数学的な法則のもとに、病気が発生していることを意味している。個人的な現象ではありながら、社会全体として見れば、個人を(エ)<u>チョウエツ</u>した法則が支配していると考えたくなる。（中略）

14 年齢とともに増えるのはがんだけではない。心筋梗塞も、脳卒中も歳（とし）をとればとるほど罹（かか）りやすくなる。そこで、胃がんと同じように、それぞれの年齢別の死亡率を調

メモ欄



図③

がん、脳卒中、心筋梗塞の年齢別死亡率を両対数グラフ上にプロットすると、ほぼ同じ勾配の直線が得られる。女性のがんはほかより勾配がなだらかである

べて、グラフにプロット[注2]し、数式を求めた（図③）。その結果、これらの三大成人病はすべて年齢のａ乗で増加し、ａの値は五から七の間にあることが分かった。ということは、六〇歳前後では、それぞれ毎年九％から一二％リスクが高くなっていくことを意味している。五〇歳前後では年齢による上昇率はもっと高く、一〇％から一五％になる。

15 歳をとるごとに、毎年一〇％かそれ以上リスクが増えていることを忘れてはいけない。今、健康であろうとなかろうと、定期的な健康診断を受けることが、いかに重要か理解できるであろう。

16 どんな病気でも、病気にならないよう、予防することが大切である。予防のための努力など、病気になった後の苦労を考えれば、何でもないことである。視力を失った生活がいかに大変であるか。それに比べれば、糖尿病をコントロールするための運動と食事制限など、つらいうちにも入らないであろう。

17 どんな病気でも早く発見すれば治せる。がんも、早く発見すれば治療成績がよい。胃がん、大腸がんは、健診などで早期に発見すれば、ほぼ一〇〇パーセント治る。毎年、健康診断をきちんと受け、病気予防のための生活習慣を守ることが大切である。もし、がんの予防になる生活習慣が、ジュン(オ)カン器疾患の予防と異なっていたら、どちら

メモ欄

をとるべきか迷うであろう。しかし、安心してよい。生活習慣病の予防は、どの病気にも共通している。しかも、ごく常識的である。

（注）
1　対数――aを1以外の正数とするとき、x＝aのy乗という関係があるならば、yが「aを底とするxの対数」となる。対数に変換することで、桁数の多い数の乗除を加減法で行うことが可能になる。

2　プロット（する）――統計などで、データを図表上に示すこと。

メモ欄

問１ 傍線部(ア)〜(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は［1］〜［5］。

(ア) イアンとなり ［1］

① 君のイ見が聞きたい。
② 同僚のイ労会を開く。
③ とてもイ心地がいい。
④ 学級イ員会を開く。
⑤ 外国にイ住する。

(イ) ネンショウしはじめる ［2］

① ショウ明写真を撮る。
② 映画を鑑ショウする。
③ 記録を抹ショウする。
④ 先生に友人をショウ介する。
⑤ ごみをショウ却炉に入れる。

(ウ) 基礎タイシャ ［3］

① お祭りでシャ的を楽しむ。
② 傾シャした地形。
③ いさぎよくシャ罪する。
④ 寄宿シャで暮らす。
⑤ 土シャくずれが発生する。

(エ) チョウエツした ［4］

① 日程をチョウ整する。
② 延チョウ試合になる。
③ 県チョウ所在地に住む。
④ 時間をチョウ過する。
⑤ 時代のチョウ流に乗る。

(オ) ジュンカン器 ［5］

① カン太平洋地域に属する。
② 土地カンの必要な場所。
③ カン覧車に乗る。
④ カン性の豊かな人。
⑤ 首尾が一カンしている。

問２ **【資料Ⅱ】**の下線部Ａ「喫煙、食生活、運動その他の生活習慣が健康に及ぼす影響等がんに関する正しい知識」とあるが、がん予防に有効な生活習慣の例として**【文章】**で取り上げられているのは何か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［６］。

① エスカレーター、エレベーターを活用し、体の負担を軽減する。
② 満員電車で無理をせず、自動車で通勤する。
③ 一〇〇メートルを全力で疾走するような激しい運動を心がける。
④ ウォーキングやジョギングなどの有酸素運動を行う。
⑤ 内臓脂肪を減らし腹囲を一センチ縮める。

問３　傍線部Ｂ「初めて、この関係を知ったとき、非常に驚いたのをおぼえている」とあるが、筆者はどんなことに驚いたのか。最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［7］。

① 病気になるリスクは、年齢とともに高くなっていくこと。
② 胃がんの年齢別死亡率と年齢をグラフ化すると、きれいな放物線を描くこと。
③ 患者と医者では、病気に対する認識がまったく異なっていること。
④ 胃がんの年齢別死亡率と年齢が、見事な相関関係にあること。
⑤ 病気は人智をこえた法則によって支配されている、というべきであること。

問４　**【文章】**および文中の図③からはどのようなことが読み取れるか。その説明として**適当でないもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。
解答番号は　8　。

①　三大成人病のうち、もっとも死亡率が低いのは心筋梗塞である。
②　八〇代の女性のがんと脳卒中の死亡率はほぼ同じである。
③　女性のがんによる死亡率は男性よりも高い。
④　がんだけでなく、心筋梗塞や脳卒中も加齢とともに増加する。
⑤　六〇歳前後よりも、五〇歳前後のほうが年齢によるがん死亡の上昇率は高い。

問５　**【文章】**の表現に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［９］。

①　第１～３段落で宣教師の証言や夏目漱石の文章をあえて引用することで格調を高め、読者を信頼させようとする意図が込められている。

②　第５段落で地方に肥満者が多いこと、第６段落で地方が車社会であることを指摘し、地方のほうが都会よりも都市化が進んでいるという社会の矛盾を突いている。

③　第10段落で結腸がんと大腸がん、男性と女性では調査結果が異なることをあげ、一つだけの結論ではなく、さまざまな見方を提示している。

④　第11段落で一見主題と関係ないスポーツクラブの張り紙をあえて取り上げ、そこには会員を引き留める以上の真理が書かれていることを指摘している。

⑤　第17段落で現代はどんな病気もほぼ一〇〇パーセント治ることを強調し、がんや生活習慣病の予防には医療技術のさらなる発展や人材の育成が必要であると訴えている。

問６ 【**資料Ⅰ**】の空欄 **a** に当てはまるものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は 10 ・ 11 。

① 地方公共団体の責務
② 医療保険者の責務
③ 国民の責務
④ 医師等の責務
⑤ がんの予防の推進
⑥ がん検診の質の向上等

第4講　2017年度　試行調査　第3問

第3問

次の文章は、複数の作家による『捨てる』という題の作品集に収録されている光原百合（みつはらゆり）の小説「ツバメたち」の全文である。この文章を読んで、後の問い（問1〜5）に答えよ。なお、本文の下の数字は行数を示す。

〈一羽のツバメが渡りの旅の途中で立ち寄った町で、「幸福な王子」と呼ばれる像と仲良くなった。王子は町の貧しい人々の暮らしぶりをツバメから聞いて心を痛め、自分の体から宝石や金箔（きんぱく）を外して配るよう頼む。冬が近づいても王子の願いを果たすためにその町にとどまっていたツバメは、ついに凍え死んでしまった。それを知った王子の心臓は張り裂けた。金箔をはがされてみすぼらしい姿になった王子の像は溶かされてしまうが、二つに割れた心臓だけはどうしても溶けなかった。ツバメの死骸と王子の心臓は、ともにゴミ捨て場に捨てられた。その夜、「あの町からもっとも尊いものを二つ持ってきなさい」と神に命じられた天使が降りてきて、ツバメと王子の心臓を抱き、天国へと持ち帰ったのだった。

オスカー・ワイルド作「幸福な王子」より〉

A 遅れてその町にやってきた若者は、なんとも風変わりだった。

つやのある黒い羽に敏捷（びんしょう）な身のこなし、実に見た目のいい若者だったから、南の国に

メモ欄

わたる前、最後の骨休めをしながら翼の力をたくわえているあたしたちの群れに、問題なく受け入れられた。あたしの友だちの中にも彼に興味を示すものは何羽もいた。でも、彼がいつも夢のようなことばかり語るものだから――今まで見てきた北の土地について、これから飛んでいく南の国について、遠くを見るようなまなざしで語るばかりだったから、みんなそのうち興味をなくしてしまった。来年、一緒に巣をこしらえて子どもを育てる連れ合いには、そこらを飛んでいる虫を素早く見つけてたくさんつかまえてくれる若者がふさわしい。遠くを見るまなざしなど必要ない。

とはいえ嫌われるほどのことではないし、厳しい渡りの旅をともにする仲間は多いに越したことはないので、彼はあたしたちとそのまま一緒に過ごしていた。

そんな彼が翼繁（しげ）く通っていたのが、丘の上に立つ像のところだった。早くに死んでしまった身分の高い人間、「王子（プリンス）」と人間たちは呼んでいたが、その姿に似せて作った像だということだ。遠くからでもきらきら光っているのは、全身に金が貼ってあって、たいそう高価な宝石も使われているからだという。あたしたちには金も宝石も用はないが。

人間たちはこの像をひどく大切にしているようで、何かといえばそのまわりに集まって、列を作って歩くやら歌うやら踊るやら、(ア)ギョウギョウしく騒いでいた。

彼はその像の肩にとまって、あれこれとおしゃべりするのが好きなようだった。王子の像も嬉（うれ）しそうに応じていた。

「一体何を、あんなに楽しそうに話しているの？」

彼にそう聞いてみたことがある。

メモ欄

「僕の見てきた北の土地や、まだ見ていないけれど話に聞く南の国のことをね。あの方はお気の毒に、人間として生きていらした間も、身分が高いせいでいつもお城の中で守られていて、そう簡単にはよその土地に行けなかったんだ。憧れていた遠い場所の話を聞けるのが、とても嬉しいと言ってくださってる」

「そりゃよかったわね」

あたしたちには興味のない遠い土地の話が、身分の高いお方とやらには嬉しいのだろう。誇らしげに話す彼の様子が腹立たしく、あたしはさっさと朝食の虫を捕まえに飛び立った。

やがて彼が、王子と話すだけでなく、そこから何かをくわえて飛び立って、町のあちこちに飛んでいく姿をよく見かけるようになった。南への旅立ちも近いというのに一体何をしているのか、あたしには不思議でならなかった。

風は日増しに冷たくなっていた。あたしたちの群れの長老が旅立ちの日を決めたが、それを聞いた彼は、自分は行かない、と答えたらしい。自分に構わず発(た)ってくれと。

仲間たちは皆、彼のことは放っておけと言ったが、あたしは気になった。いよいよ明日は渡りに発つという日、あたしは彼をつかまえ、逃げられないよう足を踏んづけておいてから聞いた。ここで何をしているのか、なにをするつもりなのか。

彼はあたしの方は見ずに、丘の上の王子の像を遠く眺めながら答えた。

「僕はあの方を飾っている宝石を外して、それから体に貼ってある金箔をはがして、貧しい人たちに持って行っているんだ。あの方に頼まれたからだ。あの方は、この町の貧

メモ欄

しい人たちが食べ物も薪（まき）も薬も買えずに苦しんでいることを、ひどく気にしておられる。こんな悲しいことを黙って見ていることはできない、けれどご自分は台座から降りられない。だから僕にお頼みになった。僕が宝石や金箔を届けたら、おなかをすかせた若者がパンを、凍える子どもが薪を、病気の年寄りが薬を買うことができるんだ」

　あたしにはよくわからなかった。

「どうしてあなたが、それをするの？」

「誰かがしなければならないから」

「だけど、どうしてあなたが、その『誰か』なの？　なぜあなたがしなければならないの？ここにいたのでは、長く生きられないわよ」

あたしは重ねて聞いた。彼は馬鹿にしたような目で、ちらっとあたしを見た。

「君なんかには、僕らのやっていることの尊さは**B**わからないさ」

腹が立ったあたしは「勝手にすれば」と言って、足をのけた。彼ははばたいて丘の上へと飛んで行った。あたしはそれをただ見送った。

　長い長い渡りの旅を終え、あたしたちは南の海辺の町に着いた。あたしは数日の間、海を見下ろす木の枝にとまって、沖のほうを眺めていた。彼が遅れて飛んで来はしないかと思ったのだ。しかし彼が現れることはなく、やがて嵐がやって来て、数日の間海を閉ざした。

　この嵐は冬の(イ)トウライを告げるもので、北の町はもう、あたしたちには生きていけない寒さになったはずだと、年かさのツバメたちが話していた。

メモ欄

彼もきっと、もう死んでしまっているだろう。

彼はなぜ、あの町に残ったのだろうか。貧しい人たちを救うため、自分ではそう思っていただろう。あたしなどにはそんな志はわからないのだと。でも本当のところは、大好きな王子の喜ぶ顔を見たかっただけではないか。

そうして王子はなぜ、彼に使いを頼んだのだろう。貧しい人たちを救うため、自分ではそう思っていただろう。でも……。

まあいい。どうせあたしにはCわからない、どうでもいいことだ。春になればあたしたちは、また北の土地に帰っていく。あたしはそこで、彼のような遠くを見るまなざしなど持たず、近くの虫を見つけてせっせとつかまえ、子どもたちを一緒に育ててくれる若者と(ウ)ショタイを持つことだろう。

それでも、もしまた渡りの前にあの町に寄って「幸福な王子」の像を見たら、聞いてしまうかもしれない。

あなたはただ、自分がまとっていた重いものを、捨てたかっただけではありませんか。そして、命を捨てても自分の傍（そば）にいたいと思う者がただひとり、いてくれればいいと思ったのではありませんか――と。

（光原百合他『捨てる』による。）

メモ欄

問１　傍線部(ア)〜(ウ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 1 〜 3 。

(ア)　ギョウギョウしく　1

① 会社のギョウセキを掲載する
② クギョウに耐える
③ 思いをギョウシュクした言葉
④ イギョウの鬼
⑤ ギョウテンするニュース

(イ)　トウライ　2

① 孤軍フントウ
② 本末テントウ
③ トウイ即妙
④ 用意シュウトウ
⑤ 不偏フトウ

(ウ)　ショタイを持つ　3

① アクタイをつく
② 新たな勢力のタイトウ
③ タイマンなプレー
④ 家庭のアンタイを願う
⑤ 秘書をタイドウする

問２　傍線部Ａ「遅れてその町にやってきた若者は、なんとも風変わりだった。」にある「若者」の「風変わり」な点について説明する場合、本文中の波線を引いた四つの文のうち、どの文を根拠にするべきか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **4** 。

① つやのある黒い羽に敏捷な身のこなし、実に見た目のいい若者だったから、南の国にわたる前、最後の骨休めをしながら翼の力をたくわえているあたしたちの群れに、問題なく受け入れられた。

② あたしの友だちの中にも彼に興味を示すものは何羽もいた。

③ でも、彼がいつも夢のようなことばかり語るものだから――今まで見てきた北の土地について、これから飛んでいく南の国について、遠くを見るようなまなざしで語るばかりだったから、みんなそのうち興味をなくしてしまった。

④ とはいえ嫌われるほどのことではないし、厳しい渡りの旅をともにする仲間は多いに越したことはないので、彼はあたしたちとそのまま一緒に過ごしていた。

問３　傍線部Ｂ「わからないさ」及び傍線部Ｃ「わからない」について、「彼」と「あたし」はそれぞれどのような思いを抱いていたか。その説明として最も適当なものを、傍線部Ｂについては次の【Ⅰ群】の①～③のうちから、傍線部Ｃについては後の【Ⅱ群】の①～③のうちから、一つずつ選べ。解答番号は　5　・　6　。

【Ⅰ群】　5

① 南の土地に渡って子孫を残すというツバメとしての生き方に固執し、生活の苦しさから救われようと「王子」の像にすがる町の人々の悲痛な思いを理解しない「あたし」の利己的な態度に、軽蔑の感情を隠しきれない。

② 町の貧しい人たちを救おうとする「王子」と、命をなげうってそれを手伝う自分を理解するどころか、その行動を自己陶酔だと厳しく批判する「あたし」に、これ以上踏み込まれたくないと嫌気がさしている。

③ 群れの足並みを乱させまいとどう喝する「あたし」が、暴力的な振る舞いに頼るばかりで、「王子」の行いをどれほど熱心に説明しても理解しようとする態度を見せないことに、裏切られた思いを抱き、失望している。

【Ⅱ群】　6

① 「王子」の像を金や宝石によって飾り、祭り上げる人間の態度は、ツバメである「あたし」にとっては理解できないものであり、そうした「王子」に生命をかけて尽くしている「彼」のこともまたいまだに理解しがたく感じている。

② 無謀な行動に突き進んでいこうとする「彼」を救い出す言葉を持たず、暴力的な振る舞いでかえって「彼」を突き放してしまったことを悔い、これから先の生活にもその後悔がついて回ることを恐れている。

③ 貧しい人たちを救うためというより、「王子」に尽くすためだけに「彼」は行動しているに過ぎないと思っているが、「彼」自身の拒絶によってふたりの関係に介入することもできず、割り切れない思いを抱えている。

問４ この小説は、オスカー・ワイルド「幸福な王子」のあらすじの記載から始まっている。この箇所（Ｘ）とその後の文章（Ｙ）との関係はどのようなものか。その説明として適当なものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。解答番号は 7 。

① Ｘでは、神の視点から「一羽のツバメ」と「王子」の自己犠牲的な行為が語られ、最後には救済が与えられることで普遍的な博愛の物語になっている。ツバメたちの視点から語り直すＹは、Ｘに見られる神の存在を否定した上で、「彼」と「王子」のすれ違いを強調し、それによってもたらされた悲劇へと読み替えている。

② Ｘの「王子」と「一羽のツバメ」の自己犠牲は、人々からは認められなかったものの、最終的には神によってその崇高さを保証される。Ｙでも、献身的な「王子」に「彼」が命を捨てて仕えただろうことが暗示されるが、その理由はいずれも、「あたし」によって、個人的な願望に基づくものへと読み替えられている。

③ Ｙでは、「あたし」という感情的な女性のツバメの視点を通して、理性的な「彼」を批判し、超越的な神の視点も破棄している。こうして、「一羽のツバメ」と「王子」の英雄的な自己犠牲が神によって救済されるというＸの幸福な結末を、「あたし」の介入によって、救いのない悲惨な結末へと読み替えている。

④ Ｙには、「あたし」というツバメが登場し、「王子」に向けた「彼」の言動の不可解さに言及する「あたし」の心情が中心化されている。「一羽のツバメ」と「王子」が誰にも顧みられることなく悲劇的に終わるＸを、Ｙは、「彼」と家庭を持ちたいという「あたし」の思いの成就を暗示する恋愛物語へと読み替えている。

⑤ Ｘは、愚かな人間たちによって捨てられた「一羽のツバメ」の死骸と「王子」の心臓が、天使によって天国に迎えられるという逆転劇の構造を持っている。その構造は、Ｙにおいて、仲間によって見捨てられた「彼」の死が「あたし」によって「王子」のための自己犠牲として救済されるという、別の逆転劇に読み替えられている。

⑥ Ｘでは、貧しい人々に分け与えるために宝石や金箔を外すという「王子」の自己犠牲的な行為は、「一羽のツバメ」の献身とともに賞賛されている。それに対して、Ｙでは、「王子」が命を捧げるように「彼」に求めつつ、自らは社会的な役割から逃れたいと望んでいるとして、捨てるという行為の意味が読み替えられている。

問５ 次の【Ⅰ群】のａ～ｃの構成や表現に関する説明として最も適当なものを、後の【Ⅱ群】の①～⑥のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は［８］～［10］。

【Ⅰ群】

ａ　1～10行目のオスカー・ワイルド作「幸福な王子」の記載　［８］

ｂ　16行目「彼がいつも夢のようなことばかり語るものだから――」の「――」　［９］

ｃ　68行目以降の「あたし」のモノローグ（独白）　［10］

【Ⅱ群】

① 最終場面における物語の出来事の時間と、それを語っている「あたし」の現在時とのずれが強調されている。

② 「彼」の性質を端的に示した後で具体的な例が重ねられ、その性質に注釈が加えられている。

③ 断定的な表現を避け、言いよどむことで、「あたし」が「彼」に対して抱く不可解さが強調されている。

④ 「王子」の像も人々に見捨てられるという、「あたし」にも想像できなかった展開が示唆されている。

⑤ 「あたし」の、「王子」や「彼」の行動や思いに対して揺れる複雑な心情が示唆されている。

⑥ 自問自答を積み重ねる「あたし」の内面的な成長を示唆する視点が加えられている。

第５講 ２０１８年度 試行調査 第３問

第３問

次の詩「紙」（『オンディーヌ』、一九七二年）とエッセイ「永遠の百合(ゆり)」（『花を食べる』、一九七七年）を読んで（ともに作者は吉原幸子(よしはらさちこ)）、後の問い（問１〜６）に答えよ。なお、設問の都合でエッセイの本文の段落に 1 〜 8 の番号を付し、表記を一部改めている。（配点 50）

紙

愛ののこした紙片が
しらじらしく ありつづけることを
(ア)いぶかる

書いた ひとりの肉体の
重さも ぬくみも 体臭も
いまはないのに

こんなにも
もえやすく いのちをもたぬ

たった一枚の黄ばんだ紙が
こころより長もちすることの 不思議

いのち といふ不遜
一枚の紙よりほろびやすいものが
A何百枚の紙に 書きしるす 不遜

死のやうに生きれば
何も失はないですむだらうか
この紙のやうに 生きれば

さあ

メモ欄

ほろびやすい愛のために
乾杯
のこされた紙片に
乾杯
いのちが

蒼(あお)ざめそして黄ばむまで
（いのちでないものに近づくまで）
乾杯！

永遠の百合

1 あまり生産的とはいえない、さまざまの優雅な(イ)手すさびにひたれることは、女性の一つの美点でもあり、（何百年もの涙とひきかえの）特権であるのかもしれない。近ごろはアート・フラワーという分野も颯爽(さっそう)とそれに加わった。

2 去年の夏、私はある古い友だちに、そのような〝匂わない〟百合の花束をもらった。「秋になったら捨てて頂戴ね」という言葉を添えて。

3 私はびっくりし、そして考えた。これは謙虚か、傲慢か、ただのキザなのか。そんなに百合そっくりのつもりなのか、そうでないことを恥じているのか。人間が自然を真似(まね)る時、決して自然を超える自信がないのなら、いったいこの花たちは何なのだろう。心こめてにせものを造る人たちの、ほんものにかなわないという(ウ)いじらしさと、生理まで似せるつもりの思い上がりと。

4 枯れないものは花ではない。それを知りつつ枯れない花を造るのが、Bつくるということではないのか。――花そっくりの花も、花より美しい花もあってよい。それに

メモ欄

香水をふりかけるもよい。だが造花が造花である限り、たった一つできないのは枯れることだ。そしてまた、たった一つできるのは枯れないことだ。

5 花でない何か。どこかで花を超えるもの。大げさに言うなら、ひと夏の百合を超える永遠の百合。それをめざす時のみ、つくるという、真似るという、不遜な行為は許されるのだ。（と、私はだんだん昂奮(こうふん)してくる。）

6 絵画だって、ことばだってそうだ。一瞬を永遠のなかに定着する作業なのだ。個人の見、嗅いだものをひとつの生きた花とするなら、それはすべての表現にましてＣ在るという重みをもつに決まっている。あえてそれを花を超える何かに変える——もどす——ことがたぶん、描くという行為なのだ。そのひそかな夢のためにこそ、私もまた手をこんなにノリだらけにしているのではないか。もし、もしも、ことばによって私の一瞬を枯れない花にすることができたら！

7 ——ただし、（とＤ私はさめる。）秋になったら……の発想を、はじめて少し理解する。）「私の」永遠は、たかだかあと三十年——歴史上、私のような古風な感性の絶滅するまでの短い期間——でよい。何故(なぜ)なら、（ああ何という不変の真理！）死なないものはいのちではないのだから。

8 私は百合を捨てなかった。それは造ったものの分までうしろめたく蒼ざめながら、今も死なないまま、私の部屋に立っている。

メモ欄

問１　傍線部(ア)〜(ウ)の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は［１］〜［３］。

(ア)「いぶかる」［１］
① うるさく感じる
② 誇らしく感じる
③ 冷静に考える
④ 気の毒に思う
⑤ 疑わしく思う

(イ)「手すさび」［２］
① 思いがけず出てしまう無意識の癖
② 多くの労力を必要とする創作
③ いつ役に立つとも知れない訓練
④ 必要に迫られたものではない遊び
⑤ 犠牲に見合うとは思えない見返り

(ウ)「いじらしさ」［３］
① 不満を覚えず自足する様子
② 自ら蔑み萎縮している様子
③ けなげで同情を誘う様子
④ 配慮を忘れない周到な様子
⑤ 見るに堪えない悲痛な様子

問２　傍線部Ａ「何百枚の紙に　書きしるす　不遜」とあるが、どうして「不遜」と言えるのか。エッセイの内容を踏まえて説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［４］。

① そもそも不可能なことであっても、表現という行為を繰り返すことで、あたかも実現が可能なように偽るから。
② はかなく移ろい終わりを迎えるほかないものを、表現という行為を介して、いつまでも残そうとたくらむから。
③ 心の中にわだかまることからも、表現という行為を幾度も重ねていけば、いずれは解放されると思い込むから。
④ 空想でしかあり得ないはずのものを、表現という行為を通じて、実体として捉えたかのように見せかけるから。
⑤ 滅びるものの美しさに目を向けず、表現という行為にこだわることで、あくまで永遠の存在に価値を置くから。

問３　傍線部Ｂ「つくるということ」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 5 。

① 対象をあるがままに引き写し、対象と同一化できるものを生み出そうとすること。
② 対象を真似てはならないと意識をしながら、それでもにせものを生み出そうとすること。
③ 対象に謙虚な態度で向き合いつつ、あえて類似するものを生み出そうとすること。
④ 対象を真似ながらも、どこかに対象を超えた部分をもつものを生み出そうとすること。
⑤ 対象の捉え方に個性を発揮し、新奇な特性を追求したものを生み出そうとすること。

問４　傍線部Ｃ「在るという重み」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **6** 。

①　時間的な経過に伴う喪失感の深さ。

②　実物そのものに備わるかけがえのなさ。

③　感覚によって捉えられる個性の独特さ。

④　主観の中に形成された印象の強さ。

⑤　表現行為を動機づける衝撃の大きさ。

問5 傍線部**D**「私はさめる」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 7 。

① 現実世界においては、造花も本物の花も同等の存在感をもつことを認識したから。

② 創作することの意義が、日常の営みを永久に残し続けることにもあると理解したから。

③ 花をありのままに表現しようとしても、完全を期することはできないと気付いたから。

④ 作品が時代を超えて残ることに違和感を抱き、自分の感性も永遠ではないと感じたから。

⑤ 友人からの厚意を理解もせずに、身勝手な思いを巡らせていることを自覚したから。

問6 詩「紙」とエッセイ「永遠の百合」の表現について、次の(i)・(ii)の問いに答えよ。

(i) 次の文は詩「紙」の表現に関する説明である。文中の空欄 [a] ・ [b] に入る語句の組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は [8] 。

> 対比的な表現や [a] を用いながら、第一連に示される思いを [b] に捉え直している。

① a―擬態語　b―演繹(えんえき)的
② a―倒置法　b―反語的
③ a―反復法　b―帰納的
④ a―擬人法　b―構造的

(ii) エッセイ「永遠の百合」の表現に関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 9 。

① 第４段落における「たった一つできないのは枯れることだ。そしてまた、たった一つできるのは枯れないことだ」では、対照的な表現によって、枯れないという造花の欠点が肯定的に捉え直されている。

② 第５段落における「(と、私はだんだん昂奮してくる。)」には、第三者的な観点を用いて「私」の感情の高ぶりが強調されており、混乱し揺れ動く意識が臨場感をもって印象づけられている。

③ 第６段落における「――もどす――」に用いられている「――」によって、「私」の考えや思いに余韻が与えられ、「花」を描くことに込められた「私」の思い入れの深さが強調されている。

④ 第７段落における「『私の』永遠」の「私の」に用いられている「　」には、「永遠」という普遍的な概念を話題に応じて恣意的に解釈しようとする「私」の意図が示されている。

第６講　演習問題

第３問

次の詩「永訣（えいけつ）の朝」（宮沢賢治『春と修羅』、一九二四年）とエッセイ「宮沢賢治の挽歌（ばんか）」の一部（山折哲雄『悲しみの精神史』、二〇〇二年）を読んで、後の問い（**問１〜５**）に答えよ。なお、設問の都合でエッセイの本文の段落に 1 〜 8 の番号を付し、表記を一部改めている。

永訣の朝

けふのうちに
とほくへいつてしまふわたくしのいもうとよ
みぞれがふつておもてはへんにあかるいのだ
　A<u>（あめゆじゆとてちてけんじや）</u>
うすあかくいつそう陰惨（いんざん）な雲から
みぞれはびちよびちよふつてくる
　（あめゆじゆとてちてけんじや）
青い蓴菜（じゅんさい）（注１）のもやうのついた
これらふたつのかけた陶椀（たうわん）に
おまへがたべるあめゆきをとらうとして
わたくしはまがつたてつぱうだまのやうに
このくらいみぞれのなかに飛びだした
　（あめゆじゆとてちてけんじや）
蒼鉛（さうえん）いろの暗い雲から
みぞれはびちよびちよ沈んでくる
ああとし子
死ぬといふいまごろになつて
わたくしをいつしやうあかるくするために
こんなさつぱりした雪のひとわんを
おまへはわたくしにたのんだのだ
ありがたうわたくしのけなげないもうとよ
わたくしもまつすぐにすすんでいくから

メモ欄

（あめゆじゆとてちてけんじや）
はげしいはげしい熱やあへぎのあひだから
おまへはわたくしにたのんだのだ
　銀河や太陽　気圏などとよばれたせかいの
そらからおちた雪のさいごのひとわんを……
…ふたきれのみかげせきざいに
みぞれはさびしくたまつてゐる
わたくしはそのうへにあぶなくたち
雪と水とのまつしろな二相系(にさうけい)[注2]をたもち
すきとほるつめたい雫(しづく)にみちた
このつややかな松のえだから
わたくしのやさしいいもうとの
さいごのたべものをもらつていかう
わたしたちがいつしよにそだつてきたあひだ
みなれたちやわんのこの藍のもやうにも
もうけふおまへはわかれてしまふ
[注3]（Ora Orade Shitori egumo）
ほんたうにけふおまへはわかれてしまふ
あああのとざされた病室の
くらいびやうぶやかやのなかに
やさしくあをじろく燃えてゐる
わたくしのけなげないもうとよ
この雪はどこをえらばうにも
あんまりどこもまつしろなのだ
あんなおそろしいみだれたそらから
このうつくしい雪がきたのだ
　（うまれでくるたて
　　こんどはこたにわりやのごとばかりで
　　くるしまなあよにうまれてくる）
おまへがたべるこのふたわんのゆきに
わたくしはいまこころからいのる
どうかこれが天上のアイスクリームになつて
おまへとみんなとに聖(きよ)い資糧をもたらすやうに
わたくしのすべてのさいはひをかけてねがふ

メモ欄

（注）1　蓴菜――スイレン科の多年生水草。若い芽や葉は食用。
2　二相系――ここでは、みぞれが氷と水の二相をなしているという意味。
3　Ora Orade Shitori egumo――「私は私で一人行きます」という意味。

宮沢賢治の挽歌

1　賢治の言葉が標準語で書かれているのに対して、とし子の声が岩手方言で記されていることに注意してほしい。死にゆく者に対する賢治の呼びかけの声が標準語に移されているのに、死にゆく者の言葉は岩手方言のまま風にのってきこえてくる。そういう構成になっている。死者と生者の対話が方言と標準語に書きわけられている。

2　B賢治はどうして、自分の呼びかけも方言にしなかったのだろうか。かれら兄妹は日常的にはいつも岩手弁で語り合っていたはずなのに……。単純に賢治が詩人であり、とし子が岩手の人だったからなのか。しかし賢治の詩には、岩手方言だけで書かれたものがないわけではないのである。「けふのうちに　とほくへいつてしまふわたくしのいもうとよ」を、賢治はどうして岩手弁で書かなかったのか。「あめゆじゆとてちてけんじや」のような、土地の霊がこびりついているような言葉に移さなかったのだろうか。

3　これまで「永訣の朝」は賢治の挽歌とされてきた。むろん、それに誤りはない。そのためであろう。賢治の言葉をのせる標準語の部分が、この詩の骨格とされてきた。朗読するときも、その部分が大きく強くクローズアップされて読まれてきた。それにくらべるとき、とし子の岩手方言は、カッコにくるという作者の演出も手伝って、ど

メモ欄

ちらかというと(ア)くぐもったような口調で（気持ちで）読まれてきた。暗い背景から明るい詩語の表面にとどけられるような言葉として、それは発語されてきた。標準語が主旋律、方言がその伴奏、といった感覚だったのではないだろうか。標準語が前景に(イ)せり出し、方言が後景に退いている。そういう解釈、そういう読み方、そしてそのような朗読の仕方が定着してきた。私の目にはそのように映るのである。

4 しかし、それは間違った解釈、誤った読み方ではないだろうか。なぜならこの詩の真の主人公は最愛の妹とし子の魂の声のほうではないかと思うからだ。「けふのうちにとほくへいつてしまふわたくしのいもうと」は本当は妹の魂であり、そのとし子の魂の声を、それこそ全身を耳にして聞きとろうとしている賢治がそこにいるからだ。賢治はとし子の亡骸（なきがら）のそばにいて、もはやそこにはいない。賢治の魂も、遠くへ逝ってしまうとし子の魂を追って飛翔している。

5 賢治のか細い、すがりつくような標準語が、(ウ)あたかも宙を流れていっているようではないか。その断片のような標準語の浮き沈みのなかから、大気を引き裂くようなとし子の声が聞こえてくる。そして、(注1)さきにもふれたように、遺言のようにいいのこした最後の言葉が、この詩の終わり近くになって姿をあらわす。「うまれでくるたてこんどはこたにわりやのごとばかりでくるしまなあよにうまれてくる」（こんど生まれてくるときは、自分のことばかりで苦しまないような人として生まれてきます）。

6 だから、この詩の主旋律は、とし子が呼びかける方言のなかにこそ流れていると思わないわけにはいかない。そのとし子の魂の呼びかけに全身をとらえられているのが、なんとか標準語をつむぎ出そうとしている賢治のほうだ。つぶやくような低い声で言

メモ欄

葉にしている賢治が、そこにうずくまっている。打ちのめされたように弱々しい言葉だ。

7 「永訣の朝」はだから、とし子の岩手方言をこそ息を吸って強くひびかせるように読まなければならないのである。そのときこの詩は、天地をつらぬく挽歌の悲傷を浮かび上がらせるのではないだろうか。賢治の(注2)魂呼(たまよ)ばいに応答するとし子の、あたかもカミの声のような叫びが地上に降ってくるのである。

8 そのようなCくっきり明暗を分けた光景が、さきの(注3)長岡輝子(てるこ)さんのすばらしい朗読でもかならずしもはっきりしていない。とし子の声が天界の奥から垂直に降下してくるようにはとらえられてはいない。賢治とし子がただ向かい合っているような気配だけが伝わってくるのである。

（注）1　さきにもふれたように――引用の前の部分で、とし子が臨終に「また生まれてくるときは、こんなに自分のことばかりで苦しまないように生まれてくる」と言ったことに触れている。
2　魂呼ばい――死者の霊魂を呼び戻す儀式。
3　長岡輝子――岩手出身の女優。宮沢賢治作品の朗読で知られた。

メモ欄

問１ 傍線部(ア)〜(ウ)の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①〜⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は [1] 〜 [3] 。

(ア)「くぐもった」 [1]
① はっきりしない
② 不自然である
③ なまりの強い
④ ゆっくりした
⑤ 元気のない

(イ)「せり出し」 [2]
① でしゃばって
② はみ出して
③ 他を圧倒して
④ 想像を超えて
⑤ 押し出されて

(ウ)「あたかも」 [3]
① そのとき
② ぴったり
③ まるで
④ しばらく
⑤ まことに

問２　傍線部Ａ「あめゆじゅとてちてけんじや」とあるが、とし子がここで「あめゆじゅ（雨雪）」をほしがったのはなぜだと考えられるか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は［４］・［５］。

①　窓を開けさせて、外の空気を吸いたかったから。
②　高熱で苦しんでいて、冷たいものを口にしたかったから。
③　わざと意味のないものを頼んで、兄を笑顔にさせたかったから。
④　妹のために何かしてやりたいという、兄の気持ちを察したから。
⑤　兄を自然と触れ合わせることで、悲しみを和らげてやりたかったから。

問３ 傍線部B「賢治はどうして、自分の呼びかけも方言にしなかったのだろうか」とあるが、賢治の呼びかけを方言にしないことでどのような効果が生まれているか。その説明として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［6］。

① 詩人である賢治と、岩手の人であるとし子の教養の差が引き立つ効果。
② 土地の霊がこびりついた言葉の力を、賢治が使いこなせないことを示す効果。
③ 標準語が前景、岩手方言が後景であることを印象づける効果。
④ とし子の声の力強さと、賢治の声の弱々しさが対比される効果。
⑤ 岩手弁を強く読むことで、挽歌の悲傷を浮かび上がらせる効果。

問４　傍線部Ｃ「くっきり明暗を分けた光景」とあるが、何と何が「明」と「暗」なのか。その組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **7** 。

①　「明」＝明るい詩語としての標準語　「暗」＝暗い背景としての岩手方言
②　「明」＝飛翔するとし子と賢治の魂　「暗」＝地上に残されたとし子の亡骸
③　「明」＝つぶやくような低い賢治の声　「暗」＝大気を引き裂くようなとし子の声
④　「明」＝カミの声のようなとし子の叫び　「暗」＝とし子に対する賢治の魂呼ばい
⑤　「明」＝天界の奥から降下するとし子の声　「暗」＝賢治ととし子が向かい合っている気配

問5 詩「永訣の朝」とエッセイ「宮沢賢治の挽歌」の表現について、次の(i)・(ii)の問いに答えよ。

(i) 「永訣の朝」の表現の説明として**適当でないもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は [8] 。

① 口語自由詩である。

② 対句法が用いられている。

③ 直喩法が用いられている。

④ 反復法が用いられている。

⑤ 押韻法（おういんほう）は用いられていない。

(ii)「宮沢賢治の挽歌」に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 9 。

① 第２段落は「賢治はどうして、自分の呼びかけも方言にしなかったのだろうか」と問題提起することで、その答えが本文中にあることを示唆している。

② 第３段落は「『永訣の朝』は賢治の挽歌とされてきた。むろん、それに誤りはない」と断言することで、賢治による標準語の部分が詩の骨格であることを強調している。

③ 第４段落は「しかし、それは間違った解釈、誤った読み方ではないだろうか」と逆接で始めることで、従来の解釈に疑問を投げかけ持論を展開している。

④ 第６段落は「だから、この詩の主旋律は、とし子が呼びかける方言のなかにこそ流れていると思わないわけにはいかない」と結論を示すことで、因果関係を確認している。

⑤ 第８段落は「とし子の声が天界の奥から垂直に降下してくるようにはとらえられてはいない」と否定することで、長岡輝子さんの朗読の欠点を批判している。

巻末付録

読解法一覧

読解法1　文の構造

文を読むときは「主部と述部」「修飾部と被修飾部」「接続部と文」という文の構造に気をつけよう。

《分析記号》
〈主部〉（＝とんがりカッコ）
【修飾部】（＝四角カッコ）
接続部　／（＝スラッシュ）　文

読解法2　指示語・接続表現

文を読むときは「指示語」と「接続表現」に気をつけよう。「指示語」があれば「指示内容」を捉え、「接続表現」があれば「前後のつながり」に注意する。また、本書では「論理的なつながり」を強調するため、「接続詞」「接続語」ではなく「接続表現」という表記で統一する。

《分析記号》
「指示語」　＝　○で囲む
「接続表現」　＝　○で囲む

「指示語」のカテゴリー

①「指示語」

前の名詞や説明を指す。

「これ」「それ」「あれ」指示語（指示代名詞）
「この」「その」「あの」指示語（指示連体詞）

②「一般化の指示語（まとめの指示語）」

前の具体例や詳しい説明をまとめる働きがある。指示内容は前に書かれている説明を幅広く捉える必要がある。

「このような」「そのような」「こういう」「そういう」

「接続表現」のカテゴリー

①「解説」

前の語や文や段落を詳しく説明したり、要約的にまとめたりする。

「つまり」「つまるところ」「すなわち」
「要するに」「畢竟」「結局」
↓要約的な言い換え
「言い換えれば」「換言すると」
↓言い換え
「言わば」
↓改まった表現（比喩表現・個人言語）への言い換え

②「例示」

前の内容の具体例を引いたり、一部を強調したりする。

「例えば」「言ってみれば」
↓読者の理解のための具体例をひく
「とりわけ」「なかんずく」
↓全体の中から一部を取り出して強調する

③「理由」

前の文に対する理由を説明する。

「なぜなら」「というのは（も）」
↓評論文に多い
「けだし」「だって」
↓小説文・随筆文に多い

④ **「帰結」**

前の文からの結果・結論を示す。（順接が多い）

「だから」「したがって」「それゆえ」
「ゆえに」「よって」「それで」
「そこで」「すると」「そして」
（因果関係がない場合もある）

⑤ **「転換」**

前の主張や主題を転換する。

「しかし」「だが」「ところが」「とはいえ」「さりとて」
「それでも」「それなのに」「それにしても」「けれども」
「けれど」
↓「主張」の方向転換（逆接）

「さて」「ところで」「閑話休題」
↓「主題・話題」の転換

⑥「付加」

前の内容に別の内容を付け加える。

「さらに」「しかも」「そのうえ」「加えて」
「また」「および」「かつ」
「だけでなく」「のみならず」
↓単純な付け加え

「一方、他方」「もう一方で」「他方で」
↓対照的な内容を付け加える

⑦「補足」

反対の内容を補足する。

「ただし」「もっとも」

⑧「選択」

前の内容と後の内容のいずれか一方を選択する（両方の場合もある）。

「または」「あるいは」「もしくは」「ないし（は）」「それとも」

読解法3　文の関係

文を読むときは「同値（イコール）」「対立」「因果」「包摂（抽象具体）」という関係に注意する。「文の構造」「指示語」「接続表現」といった形式、および「言葉の意味」といった内容の両面から「文の関係」を捉える。

《分析記号》

①「同値関係」　A ＝ B
②「対立関係」　A ↕ B
③「因果関係」　A ↓ B
④「包摂関係」　A ｜ a’

読解法４　レトリック（説得話法・修辞法）

筆者は自分の主張を理解してもらうだけでなく、納得してもらえるように様々な方法を用いて工夫をしている。その工夫が「レトリック（説得話法）」である。文を読むときには「レトリック」に気をつけよう。

①「問題提起」

読者に疑問を投げかけて意識を誘導し、答えとして自説を述べる。「疑問文」があったら、そのあとに「答え」が来ることを予想しながら読もう。

《分析記号》　波線をひく

「疑問文」→「◎答え（自説・持論）」

②「具体例」「体験談」

読者がイメージしやすいような例をあげる。また、実感を込めるために体験談をあげる。これらは筆者の主張を伝えるための手段なので、（丸カッコ）で括りながら常に「筆者の主張」を意識して読もう。

《分析記号》（丸カッコ）で括る（具体例）

「◎主張」→（△具体例、体験談）→「◎まとめ」

抽象　→　具体　→　抽象

③「引用」

筆者が別の文章の筆者と対話しながら文章を展開することがある。二人で議論を進めることにより、論を深めるためである。引用は筆者の主張に対して「同意見」「反対意見」「根拠」「具体例」となるものがある。引用も（丸カッコ）で括りながら読んでいこう。

《分析記号》（丸カッコ）で括る（引用）
（△引用）→「◎筆者の説明・解釈」（引用）

④「比喩」

内容のイメージを喚起しやすくするために別のものに喩える。

《分析記号》□ で囲む
「直喩」＝「ような」「みたいな」をつけて喩える
「隠喩」＝「ような」「みたいな」をつけないで喩える
「擬人法」＝人でないものを人に喩える
「類比」＝同じグループ内の別のものに喩える

⑤「譲歩」

一般論や反論に一旦は理解を示しながらも、方向転換をして自説・持論を展開する。

《分析記号》　○　で囲む

「確かに」「もちろん」「なるほど」「むろん」→△一般論・反論

「しかし」「だが」「けれど」→◎自説・持論

読解法5　論理フレームワーク

筆者は自分の伝えたい内容を定義・整理・分類することで、内容を正確に相手に伝えようとする。あらゆる筆者に共通する整理の仕方が「フレームワーク」である。内容を正確に掴むためにも「論理フレームワーク」に注意しよう。

《分析記号》　○　で囲む

①「否定」のフレームワーク

Aではなく、（ではない。）Bである
Aより（ではなく）むしろB
Aのようで実はB

※AとBが反対の内容になる場合が多い。
※Bに筆者の主張が来ることが多い。

②「条件法」のフレームワーク

AならばB（AはBである）
Aの条件（前提、本質、基本）はBである
Aは常に（必ず、絶対）B
すべてのAはBである（全称文）
AのためにはBでなければならない
（AのためにはBである必要がある）
BでないならばAでない
B以外にはAはない
Bのときのみ（だけ、に限り）A

Bしてはじめて（してこそ）A

※主張（命題）を表す。
※Aは十分条件、Bは必要条件を表す。
※「AならばB」の否定は「Aは必ずしもBとは限らない」である。
「AであってBでない」ような「反例」が挙げられる。

③「連言」のフレームワーク

AかつB
Aさらに、そのうえ、加えて、B
Aだけでなく、（だけではない。）Bも
Aのみならず、Bも
Aと（や）B
Aつつ、ながら、同時に、ともに、B

※Aという主張とBという主張が同時になされている。
※「AかつB」の否定は「Aでない、またはBでない」となる。（ド・モルガンの法則）

④「選言」のフレームワーク

AまたはB
AあるいはB
Aもしくは、B
Aないし（は）B
Aか（や）B

※Aという主張かBという主張のうちどちらか一方（または両方）がなされている。
※「AまたはB」の否定は「Aでない、かつBでない」となる。（ド・モルガンの法則）

⑤「差異（対比）」のフレームワーク

AはXであるのに対し、BはYである
AはXであるのとは異なり（違って、別に、逆に）、
BはYである

※AとBの相違点を説明する。
※XとYは反対の内容になる場合が多い。

⑥「変化」のフレームワーク

> ＡからＢへと変化する
> ＡだったものがＡでなくなる

※ＡとＢは反対の内容になる場合が多い。

⑦「類似（類比）」のフレームワーク

> ＡはＸである。Ｂも（また）Ｘである
> ＡとＢはともにＸである
> Ａと同様にＢも（また）Ｘである
> ＡとＢはＸという点で同じである

※ＡとＢの共通点を説明する。

⑧「逆説」のフレームワーク

Aすると、かえってB
Aと同時にB

※AとBは反対の内容になる。
※一見矛盾しているように見えるが真である。

⑨「因果」のフレームワーク

AだからB
AなのでB
AによってB
AのためB

※AとBに因果関係がある。

読解法6 論証

筆者は自説を主張するが、その主張は読者にとって飛躍があったり、常識に反する内容であったりする。そこで、筆者は読者に納得してもらうために「論証（証明）」を行う。その「論証」を読むために「論証のフレームワーク」に注意しよう。

①単純な論証

A（○根拠）→B（◎結論）

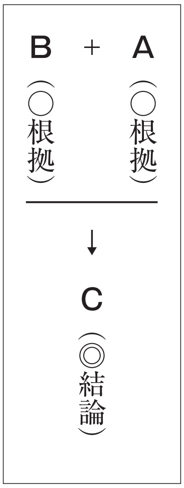
※根拠Aから結論Bが導かれている。

②論証の連鎖

A（△根拠）→B（○根拠）→C（◎結論）

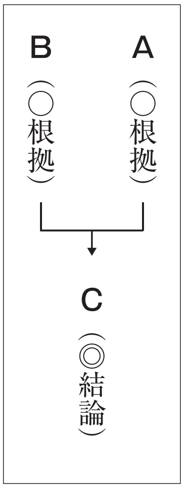
※主張Aが根拠となって主張Bが導かれ、その主張Bが根拠となって主張Cが導かれる。

③結合論証



※主張AとBが組み合わさって一つの根拠を形成し、主張Cが結論付けられる。
※AかBかどちらか一方がもしないならば、この論証は成立しなくなる。

④合流論証



※根拠Aだけでなく根拠Bもあり、結論Cが導かれる。
※AとBはそれぞれ単独でも根拠になる。

読解法7 心情

小説文や随筆文では登場人物や作者の「心情」が問われる。「心情」を捉える際にはその心情が発生する「原因」まで捉える必要がある。そこで、「心情」を捉えるための「因果関係」を「心情」のフレームワークとして覚えよう。

①単純な心情

原因　→　**心情**　→　**結果**
（事態、事情）　　　（行動、反応、発言）

※「心情」部分が書いてない場合は「原因」と「結果」から推測する。

②心情の変化

> **心情A** →（変化）→ **心情B**
> ↑
> 変化の原因

※心情Ａから心情Ｂへの変化を捉える。
※心情は反対のものになる。
※「心情Ａ」「心情Ｂ」「変化の原因」の三点を捉える。

③結合原因の心情

> **原因A**（外的）
> ＋
> **原因B**（内的）
> → **心情** → **結果**

※「原因Ａ」と「原因Ｂ」が組み合わさって「心情」が発生する。
※「原因Ｂ」は特殊事情であることが多く、「セリフ」「心中文」「過去のシーン」によって明らかになることが多い。

④心情の交錯

原因A → 心情A
　　　　＋　　　→ 結果
原因B → 心情B

※「心情A」と「心情B」が同時に存在する。
※「心情A」と「心情B」のそれぞれに「原因」がある。
※「心情A」と「心情B」は相反する心情である場合が多い。

傍線部内容説明問題解法　「どういうことか」の解答プロセス

①「文構造」を分析する。
・文法的構造
・論理的構造

←

②「ポイント」を把握する。
・指示語
・比喩表現
・個人言語

←

③「解答の根拠」となる文と対応させる。

① 「文構造」の分析について

★ 文法的構造

・主語（主部）―述語（述部）
・修飾語（修飾部）―被修飾語（被修飾部）や目的語（目的格）や補語（補格）など
・接続助詞や連用中止法
・倒置や省略

★ 論理的構造

・否定　・差異（変化）
・連言　・類似（アナロジー）
・選言　・逆説
・条件法　・因果

設問を解く際には、まずは傍線部（または傍線部を含む一文）の統語論的「構造」を分析することからスタートする。この構造を正確に分析して、なるべく元の構造を生かして、解答を構成するためである。ただし、日本語の慣習的統語規則を鑑みて、受動態から能動態に変換するなど元の構文を変形する場合もある。

②「ポイント」になる語句について

★ 指示語（代名詞）

指 これ、この、このような、このように、それ、その、そのような、そのように　など

代 前者、後者、両者、右の、彼　など

★ 比喩表現　＝　直喩、暗喩、メタファー、レトリック　など

★ 個人言語　＝　筆者が一般的な意味とは異なる特殊な意味で使っている言葉、学術（専門）用語

③「解答の根拠」となる部分との対応について

★ 同値関係

★ 対立関係

★ 因果関係

★ 包摂関係（抽象と具体の関係）

以上の関係がある部分と対応させる。
このような関係で対応した部分が、記述解答を書く際の「解答の根拠」となる。

傍線部理由説明問題解法「なぜか」の解答プロセス

①「文構造」を分析する。
・文法的構造
・論理的構造

←

②「ポイント」を把握する。
・A → ×
（飛躍している部分）

←

③「解答の根拠」となる文と対応させる。

Ⅰ 「A→x」の発見

論証が必要な命題（文）には「A→x」という飛躍した部分がある。まずは、どこに飛躍があるかを見つけよう。

①　主語（主部）→述語（述部）に飛躍がある場合。
②　修飾部（接続部）→被修飾部（被接続部）に飛躍がある場合。

※文構造（係り受け）を分析する中で、構造的につながっているが、意味的につながっていない部分を探す。
※「x」は、「なぜ『～』か」というように設問が指定している場合もある。

Ⅱ 論証部の発見

飛躍を埋める部分が論証部となる。「A→x」のAの説明を求めよう。

Ⅲ「論証」のフレームワーク

①「単純な論証」 A → B

根拠Aから結論Bが導かれている。

〈例文〉 A子ちゃんは美人だ。　　　　**根拠 A**

したがって、 ← **導出**

私はA子ちゃんが好きである。　　　　**結論 B**

※実はこの導出に必要な前提として、「私は美人が好きだ。」というものがある。
　これは「隠れた前提」として筆者の論証が成り立つように補ってやる必要がある。
　筆者の論証が成り立つように隠れた前提を補うというルールを「**寛大の原則**」という。

②「論証の連鎖」　A → B → C

主張Aが根拠となって主張Bが導かれ、その主張Bが根拠となって主張Cが導かれる。

〈例文〉

A子ちゃんは目鼻立ちがはっきりしている。　**根拠A**

したがって、　↓ **導出**

A子ちゃんは美人だ。　**根拠B**

したがって、　↓ **導出**

私はA子ちゃんが好きである。　**主張C**

※この形が「論証」の中では一番多い。「論証」の最後に来る文が「主張提示文」になる。
その前の文は「根拠」となる。

③「結合論証」

B ＋ A
↓
C

主張AとBが組み合わさって一つの根拠を形成し、主張Cが結論付けられる。

〈例文〉

A子ちゃんは美人だ。　**主張A**

＋ **結合**

私は美人が好きだ。　**主張B**

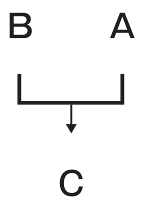
＝ **根拠**

したがって、 ← **導出**

私はA子ちゃんが好きである。　**主張C**

※先に説明した「隠れた前提」がある場合、この結合論証となる。
　この形も「理由説明問題」ではよく出題される。

④「合流論証」



根拠Aだけでなく根拠Bもあり、主張Cが導かれる。

〈例文〉

A子ちゃんは美人だ。　**根拠A**

また、

A子ちゃんは性格もよい。　**根拠B**

したがって、　←**導出**

私はA子ちゃんが好きである。　**主張C**

※この場合はどちらか片方だけでも「根拠」になる。
設問の場合には「理由を二つ説明せよ」となることが多い。

Ⅳ　論証を捉えるヒント

A　帰結の接続表現

「だから」「したがって」「よって」
「それゆえ」「ゆえに」
「それで」（「そこで」）

B　理由の接続表現

「なぜなら」「というのは（も）」
「けだし」「だって」

C　助詞など

「～から」「～ので」「～ため」「～より」「～のだ」「～のである」　→　**～が原因・理由を表す**

D　直接表現、比喩表現など

「理由」「原因」「結果」「帰結」「結論」
「〜から生じる」「〜に根ざしている」
「根源」「背景」など

傍線部心情把握問題解法「心情」の解答プロセス

①　「文構造」を分析する。
- 文法的構造
- 論理的構造

←

②　「ポイント」を把握する。
- 原因　→　客観的事態や主観的事情
- 心情　→　⊕心情や⊖心情
- 結果　→　行動や反応や発言

←

③　「解答の根拠」となる文と対応させる。

Ⅰ　単純な心情

原因 → 心情 → 結果

※心情把握問題の基本形。
※この場合は心情が書いてないため、原因と結果から挟み撃ちして心情を把握する問題になっていることが多い。

Ⅱ　心情の変化

原因Ａ → 心情Ａ → 結果Ａ → 原因Ｂ → 心情Ｂ → 結果Ｂ

※心情把握問題で一番有名な問題。
※心情Ａから心情Ｂへの変化、そして変化の原因を三点セットで捉える必要がある。

Ⅲ　結合原因の心情

原因A ＋ 原因B
↓
心情
↓
結果

※原因Aだけ捉えて答えようとすると間違いになる選択肢が多い。
※原因Bは**「リード文」「会話文」「心中文」「回想シーン」**などにある場合が多い。

Ⅳ　心情の交錯

原因Ａ → 心情Ａ
＋
原因Ｂ → 心情Ｂ
――――――――
→ 結果

※一番分析が難しい問題。

※心情Ａの原因が原因Ｂになっていたりと、原因の部分を入れ替えての誤答選択肢が多い。

■ 2017年度　試行調査

問題番号	設　問	解答番号	正　解	備　考
第２問	1	1	2	
		2	1	
	2	3	2	
	3	4	3	
	4	5	2,6	＊1
	5	6	3	

（注）
＊1 は，過不足なくマークしている場合に正解とする。正解のいずれかをマークしている場合に部分点を与えるかどうかは，本調査の分析結果を踏まえ，検討する予定。

解答−2

■ 2018年度 試行調査

問題番号（配点）	設　問	解答番号	正　解	配　点
第２問（50）	1	1	1	2
		2	2	2
		3	5	2
		4	4	2
		5	1	2
	2	6	4	6
	3	7	5	8
	4	8	4	9
	5	9	1	8
	6	10-11-12	2-4-6	9（各3）

（注）
－（ハイフン）でつながれた正解は，順序を問わない。

■ 演習問題

問題番号	設　問	解答番号	正　解
第２問	1	1	2
		2	5
		3	3
		4	4
		5	1
	2	6	4
	3	7	4
	4	8	3
	5	9	4
	6	10-11	5-6

（注）
－（ハイフン）でつながれた正解は，順序を問わない。

■ 2017年度 試行調査

問題番号	設　問	解答番号	正　解	備　考
第３問	1	1	5	
		2	4	
		3	5	
	2	4	3	
	3	5	2	＊2
		6	3	
	4	7	2,6	＊1
	5	8	4	
		9	2	
		10	5	

（注）
＊1 は，過不足なくマークしている場合に正解とする。正解のいずれかをマークしている場合に部分点を与えるかどうかは，本調査の分析結果を踏まえ，検討する予定。
＊2 は，両方を正しくマークしている場合のみ正解とする。

解答−8

■ 2018年度　試行調査

問題番号（配点）	設　問	解答番号	正　解	配　点
第３問（50）	1	1	5	3
		2	4	3
		3	3	3
	2	4	2	8
	3	5	4	6
	4	6	2	7
	5	7	4	8
	6	8	2	6
		9	1	6

第６講　演習問題　解答

■演習問題

問題番号	設　問	解答番号	正　解
第３問	1	1	1
		2	5
		3	3
	2	4-5	2-4
	3	6	4
	4	7	4
	5	8	2
		9	3

（注）
－（ハイフン）でつながれた正解は，順序を問わない。